



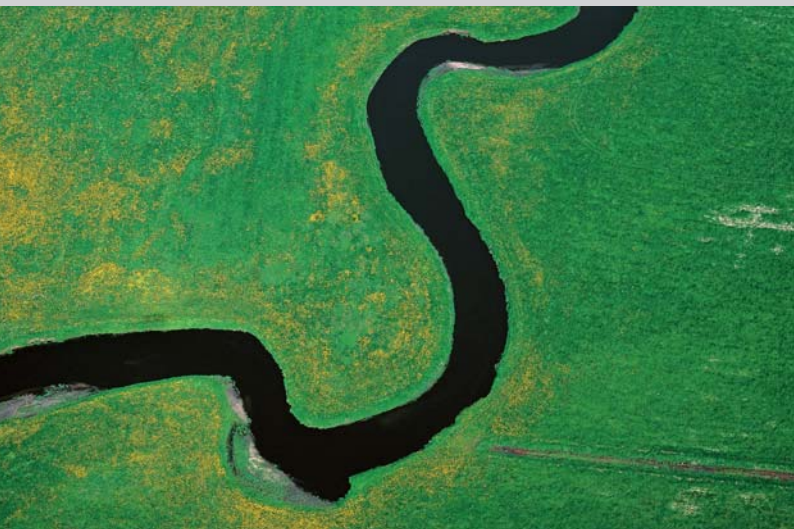
The Creation of New Value

KONICA MINOLTA CSR REPORT 2008

コニカミノルタCSRレポート



KONICA MINOLTA



地球とともに生きる、
コニカミノルタのCSR活動をご報告します。

コニカミノルタは、広く世界各国で事業を展開しています。

私たちにとって、地球とは、

企業として生きるステージそのものです。

そんな考えから、コニカミノルタは

グローバルに通用するCSR経営を推進し、

2007年度も特に環境の保全を重視したCSR活動を

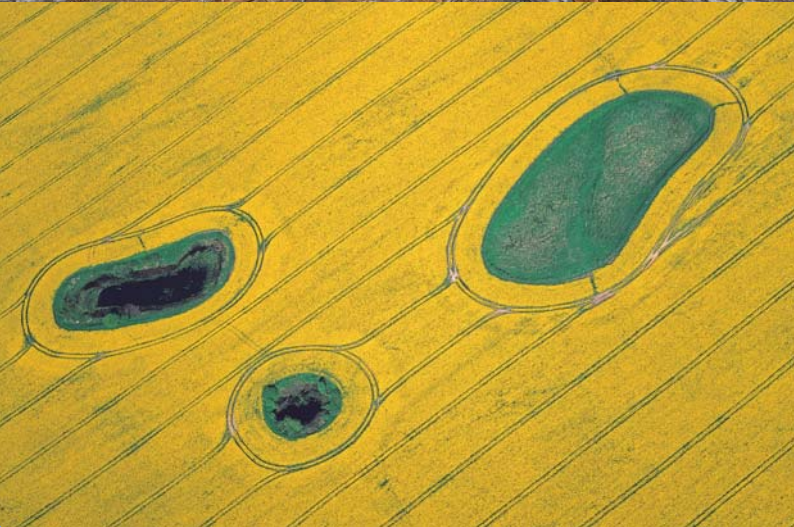
地球規模で推進してきました。

世界にひろがるグループの力を結集し、

地球とともに生きる企業としての責任を果たしたい。

その思いを实践する、コニカミノルタの

CSR活動をご報告します。



コニカミノルタグループについて

経営理念

新しい価値の創造

経営 ビジョン

- イメージングの領域で感動創造を与えつづける革新的な企業
- 高度な技術と信頼で市場をリードするグローバル企業

企業 メッセージ

The essentials of imaging

イメージングの世界でお客様に必要不可欠なものを提供し、必要不可欠な企業として認められる存在になる、というメッセージです。

シンボルロゴ



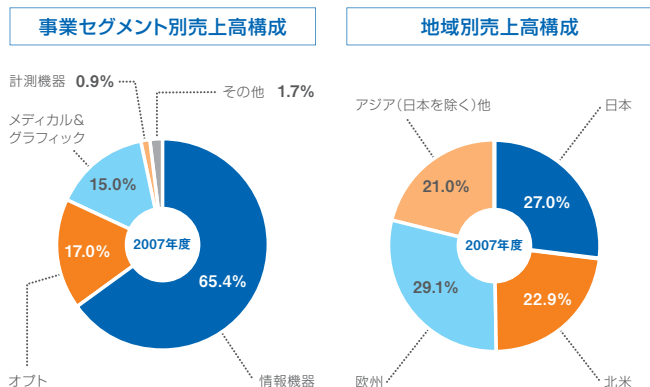
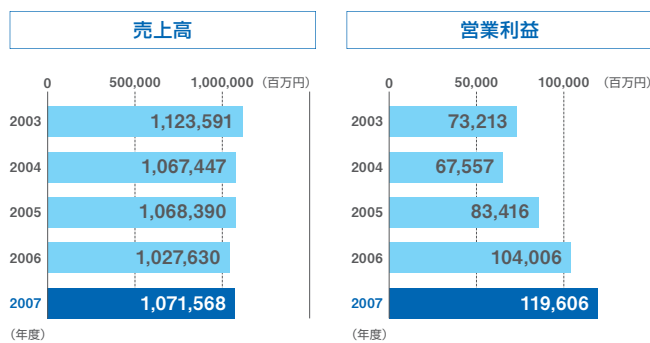
KONICA MINOLTA

地球をモチーフにしたシンボルマーク「グローブマーク」は、コニカミノルタの無限の広がりとお客様に対する新しい価値の提供を表現したものです。

■ 会社概要

会社名	コニカミノルタホールディングス株式会社
本社所在地	東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービルディング
関西支社所在地	大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス
代表者	代表執行役社長 太田 義勝
設立	1936年(昭和11年)12月22日 (2003年8月5日経営統合)
資本金	37,519百万円
決算期	3月31日
従業員数	160人(グループ従業員 31,717人) (2008年3月末現在)

■ 財務ハイライト(連結)



コア技術と事業分野

コニカミノルタグループの得意技術、商品競争力・商品の魅力の源泉としてきた技術をコア技術として定めています。

材料分野、光学分野、微細加工分野、画像分野の技術からなっています。

【材料技術】

Materials Technology

カラー色材や、有機ELおよびディスプレイ用機能フィルム材料などの技術として活用され、画質、耐久性、感度、生産性の向上に寄与しています。



液晶偏光板用TACフィルム



有機EL(開発中)

【光学技術】

Optical Technology

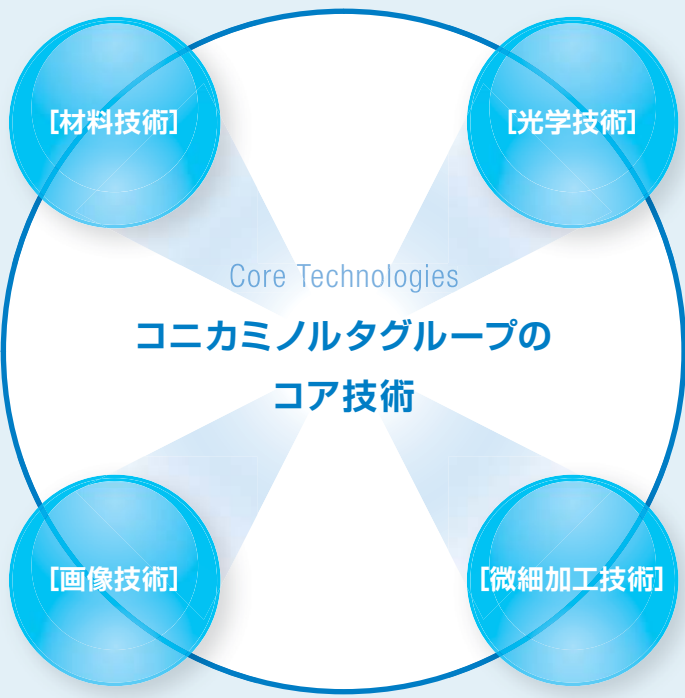
MFP(デジタル複合機)などの入出力機器の光学ユニット、3次元計測機や分光計測機の光計測ユニットの設計技術として活用され、コンパクトな設計、高精度な光学特性および計測を実現します。



分光放射輝度計



カラーデジタル複合機



【画像技術】

Imaging Technology

情報、医療、産業、計測分野の機器/システムにおける画像処理、機器設計技術として活用され、画質、使い勝手、処理速度の向上を実現します。



乳房X線撮影装置



デジタル画像出力装置



デジタル画像読取装置

【微細加工技術】

Nano-fabrication Technology

プラスチック/ガラスレンズ、HDD用ガラス基板やプリンタなどの光学ユニットの加工に活用され、コンパクト設計、高精度を実現します。



HDD用ガラス基板



光ディスク用レンズ

コニカミノルタグループは、持株会社のもと、それぞれの事業の業務執行に必要な権限と責任をもつ事業会社と、グループ内の研究開発や間接業務を横断的に集約する共通機能会社によって構成されています。

■ 持株会社

コニカミノルタ ホールディングス株式会社

コニカミノルタグループの経営戦略の策定・推進、グループ経営の管理・監督などを担い、グループ全体を統括しています。

■ 事業会社

業務執行に必要な権限を委譲し事業ごとに分社、柔軟かつスピーディに事業を推進します。

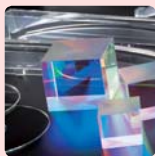
コニカミノルタ ビジネステクノロジーズ株式会社

複写機やMFP、プリンタなどの情報機器および関連消耗品などの製造・販売を行うほか、それに関連したサービスを提供しています。



コニカミノルタ オプト株式会社

光学製品（光ピックアップレンズなど）や関連機器および電子材料（TACフィルム）の製造・販売を行っています。



コニカミノルタ エムジー株式会社

医療用機器、材料および印刷用機器、材料などの製造・販売並びに関連サービスを行っています。



コニカミノルタ センシング株式会社

産業用・医用計測機器などの製造・販売を行っています。



■ 共通機能会社

グループ横断的な機能を集約し、効率的な事業推進を可能にしています。

コニカミノルタ テクノロジーセンター株式会社

コニカミノルタグループ内の研究開発、新規技術の事業化推進および知的財産の管理運用、デザインの受託を行っています。

コニカミノルタ ビジネスエキスパート株式会社

コニカミノルタグループ内の生産設備、物流・調達、環境・安全、総務、人事、経理など各種経営支援を行うほか、間接機能サービスの提供事業を行っています。

■ 特定事業会社

持株会社が支援して育成を図る事業会社です。

コニカミノルタ IJ株式会社

産業用インクジェットヘッドおよびテキスタイルプリンタなどの製造・販売を行っています。



コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

プラネタリウム機器および番組ソフトなどの製造・販売、プラネタリウム建設並びに運営サービスを行っています。



※コニカミノルタフォトイメージング株式会社は、2006年3月末にカメラ事業、2007年9月末にフォト事業のすべての営業活動を終了いたしました。



お読みいただくにあたって

■ 発行の目的

- コニカミノルタグループのCSR^{*1}への取組みを、ステークホルダーの皆様
にわかりやすくお伝えし、ご意見などをいただき、コミュニケーションを深め
ていくために発行しています。

■ 編集の考え方

- コニカミノルタグループでは、CSRを経営そのものと位置づけ、経営理念で
ある「新しい価値の創造」の追求とコニカミノルタグループ行動憲章の実践
をCSRの基本としています。
- このレポートは、CSRの基本である行動憲章の項目ごとに、主なCSRの取
組みを掲載しています。

■ レポートの主な特徴

- 持続可能な社会の構築に向けて、環境への取組みは人類共通の大きな
課題です。本レポートでは、環境配慮製品を特集で掲載するとともに、
「環境の保全」では、コニカミノルタグループの取組みの概要がご理解い
ただけるよう、昨年のCSRレポートより内容の充実を図りました。
- グローバルに事業を展開する企業として、できる限り世界各国のグループ企業の
CSR活動とそれを担っている従業員を「Staff's Voice」の形で掲載しました。
- 本レポートは2007年度の主要なCSRの取組みを掲載し、詳細なCSR活動
についてはホームページで掲載しています。
- 全世界の、より多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを促進す
るために、日本語、英語、中国語、ドイツ語、フランス語の5言語で発行します。

■ 報告対象範囲

- コニカミノルタグループ全体を対象としています。

■ 報告対象期間

- 原則として2007年4月1日より2008年3月31日までの活動を報告して
いますが、一部それ以前からの取組みや、直近の活動報告も含んでいます。

■ 発行時期

- 2008年6月(次回:2009年6月予定 前回:2007年6月)

■ 参考にしたガイドライン

- グローバルレポーティング・イニシアティブ(GRI)
「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006(第3版)」
- 環境省「環境報告ガイドライン2007年版」

※1…CSR

Corporate Social Responsibility(=企業の社会的責任)の略。コーポレートガバナンス(企業統
治)、情報開示などが、一般に企業が社会に対して果たすべき「責任」ととらえられていますが、コニカ
ミノルタでは「社会から信頼を得ること」ととらえています。

コーポレートコミュニケーション・ツール



CSR (社会・環境活動)
ホームページ
<http://konicaminolta.jp/pr/csr>
CSR活動の詳細な情報を公開しています



環境報告書ホームページ
<http://konicaminolta.jp/pr/eco>
環境活動の詳細な情報を公開しています



IRホームページ
<http://konicaminolta.jp/about/investors>
株主・投資家の皆様へ向けての情報を公開しています



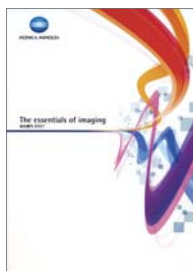
株主通信



アニュアルレポート
(英語版のみ)



有価証券報告書



会社案内



テクノロジーレポート



知的財産報告書

※ 各レポートは、コニカミノルタのホームページでもご覧いただけます。



表紙について

ドイツの写真家、ベルンハルト・エドマイヤー氏の作品を使用しています。エドマイヤー氏は地質学者から写真家に転向し、その地質学的知識を用いて世界中で美しい地球の表情を撮影しています。表紙の写真は、グローバルな企業活動を通して美しい地球環境を守る、コニカミノルタの決意を表しています。

CONTENTS

コニカミノルタグループについて	»	2
お読みいただくにあたって	»	5
トップメッセージ	»	7
コニカミノルタのCSRの考え方	»	9
[特集]イノベーション	»	11
コーポレートガバナンス	»	15
2007年度CSR活動の概要と今後の課題	»	17
環境の保全	»	19
商品の有用性・安全性	»	25
公正・透明な企業活動	»	29
社会とのコミュニケーションと情報の開示	»	33
社会への貢献	»	39
社員の尊重	»	45
コニカミノルタへの声	»	49
皆様からのご意見・ご感想	»	50



コニカミノルタグループは、経営理念に“新しい価値の創造”を掲げ、“イメージングの領域で感動創造を与え続ける革新的企業”、“高度な技術と信頼で市場をリードするグローバル企業”を経営ビジョンとしています。

2006年度を初年度とする3カ年の中期経営計画「FORWARD 08」では、基本方針のひとつに“グループ総力を挙げての成長”を定めました。

コニカミノルタは、成長領域への事業の選択と集中を徹底し、カメラ・フォト事業を終了する一方で、中核事業である情報機器事業、戦略事業であるオプト事業に経営資源を集中し、売上・利益ともに計画を上回る進捗となっています。そして“グローバルに通用するCSR経営の推進”も基本方針のひとつとして謳っています。

CSR経営の推進は、経済、社会、環境などへの取組みを含め、“新たな始まりはあっても、終りなき挑戦”であり、これをもってコニカミノルタグループを持続的に成長させ、広く社会から信頼される企業となることを目指しています。

グローバル化時代における CSR経営の実践

Top Message

「環境トップランナー」を目指して

“終りなき挑戦”の最優先課題として、「環境」を挙げたいと思います。今や「環境」は、グローバルな課題であると同時に、コニカミノルタの事業展開を考える上でも、「環境」を抜きにしては成立しないものと考えています。

広く世界中のお客様に商品やサービスを提供しているコニカミノルタグループは、他社に先駆けて、この課題に正面から取り組んでまいりました。

開発では商品の省エネ・省資源設計が技術者の基本姿勢となっており、生産の場においても、省エネ生産が工場の使命になっています。また、部品一個にまで有害化学物質の徹底排除を進めた“グリーン調達”を部品メーカーとも協力のうえ徹底しています。これらの成果の一例を挙げますと、コニカミノルタグループの主力商品である複合機では、従来製品に比べ大幅な電力消費量の削減を実現しており、その結果「bizhub(ビズハブ) C650/C550」が、「省エネ大賞 資源エネルギー庁長官賞」を受賞いたしました。

コニカミノルタの経営理念は、“新しい価値の創造”であると述べましたが、“新しい価値の創造”とは単に「これまでになかった斬新な機能を持つ新製品」を創り出すということだけではありません。

地球環境にとって優しいモノ・優れたモノを産み出していくこと、このような“創造”も私たちの使命であると考えます。

コニカミノルタは、超低電力消費の複合機はもとより、有機EL照明や独自の環境技術を駆使した製品開発を進めつつ、CO₂排出量削減をひとつの指標として、2015年度を目標に「環境トップランナー」として社会に貢献することを目指しています。

ステークホルダーの皆様との 双方向のコミュニケーション

コニカミノルタの事業活動は、多様なステークホルダーの皆様に支えられています。コニカミノルタは、取り組むすべての活動や成果を、お客様、お取引先、株主・投資家、従業員、地域社会のステークホルダーの皆様に積極的に開示し、説明責任を果たしてまいります。また、皆様のご意見・ご要望を謙虚に受け止め、事業活動、CSR活動に反映させ、透明性の高い経営を実践し、持続的な成長を遂げてまいります。

コンプライアンスの遵守が企業活動の基本

コニカミノルタは、経営の透明性を高めるコーポレートガバナンスの充実を図り、信頼される企業となるよう日々努力していますが、企業活動におけるすべての行動の中でコンプライアンスを最優先に位置づけ、法令の遵守に留まらず企業倫理や社内規則類の遵守を強化しています。昨今、コンプライアンスは「組織が社会的要請に応え、適合すること」という考えが広がり、透明性確保にも一層の厳しさが求められています。このような環境の下、グループ全体での従業員の教育や啓発を徹底するとともに、グループ各社の経営層自らが、コンプライアンスに積極的に取り組むことを重んじています。

私たちは、CSR経営の実践こそが、“新しい価値の創造”を追求し、具現化することであると考えています。コニカミノルタは、今後もグローバルに通用するCSR経営を推進し、皆様からのご期待にお応えしてまいります。

2008年6月
コニカミノルタホールディングス株式会社
代表執行役社長

太田義勝

コニカミノルタのCSRの考え方

コニカミノルタグループでは、CSRを経営そのものと位置づけ、社会に貢献する新しい価値を創造します。

経営理念と行動憲章が、CSR活動の基本です

コニカミノルタグループでは、CSRへの取り組みを経営そのものと考え、経営理念である「新しい価値の創造」と「コニカミノルタグループ行動憲章」に基づくCSR活動を推進しています。

経営理念に示された新しい価値とは、経済的、環境的、社会的な価値、そしてお客様をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆様のための、時代にあった新しい価値です。

また「コニカミノルタグループ行動憲章」には、コニカミノルタが社会とのかかわりの中で自らを変革し、より社会に貢献できる企業になるための指針が定められています。「新しい価値の創造」に基づく行動憲章を基本に、コニカミノルタは「持続可能な社会にとって必要不可欠な企業グループ」になるためのCSR活動を、グループを挙げて邁進します。



① 商品の有用性・安全性

私たちは、社会的に有用な商品・サービスを安全性に十分配慮して開発、提供し、消費者・ユーザーの信頼を獲得します。

② 公正・透明な企業活動

私たちは、法令・社会的規範を遵守し、国際ルール、定款に則して行動し、公正・透明な企業活動を行います。

③ 社会とのコミュニケーションと情報の開示

私たちは、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を適時かつ公正に開示します。

④ 環境の保全

私たちは、地球環境問題の重要性を認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。

⑤ 社会への貢献

私たちは、グローバルな視野を持ち、地域の文化や慣習を尊重し、積極的に社会に貢献します。

⑥ 社員の尊重

私たちは、社員のゆとりと豊かさを実現し、安全で働きやすい環境を確保するとともに、社員の人格、個性を尊重します。

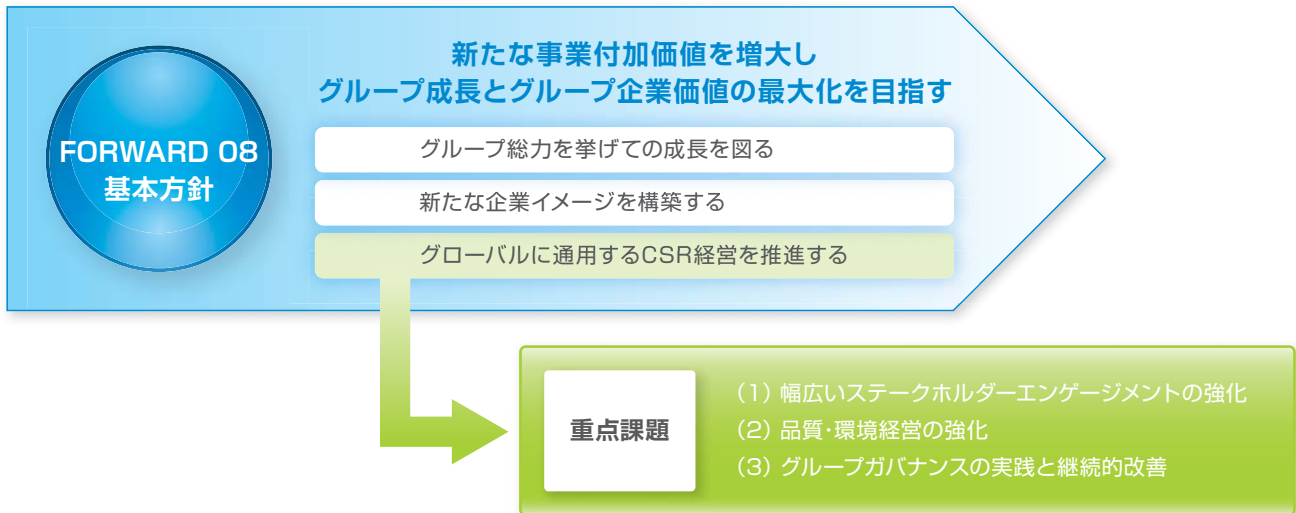
⑦ 責任ある対処

本憲章に反するような事態が発生したときには、予め定めたコンプライアンス手続きに則り、経営トップ自らが問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行います。

グローバルに通用するCSR経営の推進

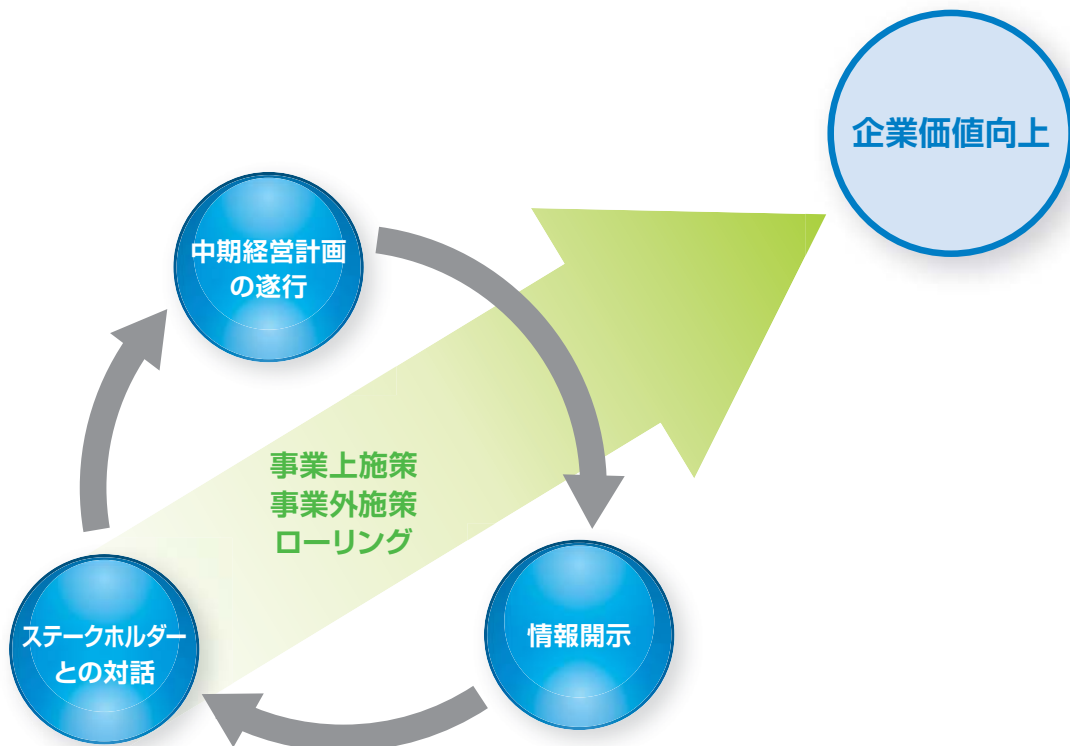
コニカミノルタは、世界の約40カ国で事業を展開するグローバル企業です。グローバル企業として、世界の皆様から信頼をいただくには、世界各地の文化や慣習などを尊重するとともに、経済面に加えて、社会面、環境面でのグローバル展開を強化する

ことが重要です。そのために、中期経営計画「FORWARD 08」の基本方針のひとつに「グローバルに通用するCSR経営の推進」を位置づけ、グループ全体でCSR活動を推進しています。

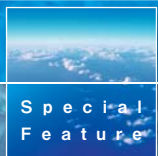


地球温暖化防止をはじめとする環境への取組みは、持続可能な社会に対する最重要課題です。コニカミノルタは、この課題に対して、グローバルに活動するメーカーとしてその責任を果たすとともに、継続的な成長が図れるよう、新たな環境ビジョンの策定

を進めています。経済・環境・社会の各側面から世界の皆様の信頼に応える活動を推進することで、企業価値の向上を図っていく。それがコニカミノルタのCSR経営です。



経済・環境・社会面から信頼に応える企業



いつも、社会

もっと便利に、愉しく、美しく。
技術革新を通じて、社会と生活を彩りゆたかなものに。
それが、コニカミノルタの考える「イノベーション」です。

働

OFFICE

オフィスで
つくる工程、つかう現場。
すべてに環境負荷の少ないMFP(デジタル複合機)。

いまやオフィスに欠かせぬ
存在となったMFP(デジタル複合機)。
長時間・高頻度で使われる
働きモノゆえ、その開発にも、
私たちは“環境性能”を追求します。

❖ IH定着技術

必要な時、すぐにプリントを開始するには、常に通電させておく必要があります。この「待機電力」をいかに抑えるかが、テーマのひとつでした。

そこで私たちが着目したのは、クッキングヒーターなどでおなじみのIH技術。電力を効率よく熱エネルギーに換えるというその特徴を活かして、ウォームアップ時間の短縮、待機時の電力低減を図りました。

つまり、使い勝手はそのままに、大幅な省エネルギー化を実現したのです。

この技術を搭載したデジタルカラー複合機「bizhub(ビズハブ)C550」は、2年前に発売された製品「bizhub C450」よりも、コピー速度が速くなっているにもかかわらず、消費電力は約4割削減しています。

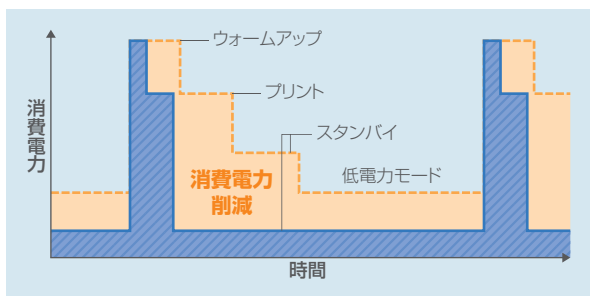
と、ともにも。



粉砕法トナー/デジタルトナーHD比較



コピー時の電力消費状況概念図



従来の定着装置
 昇温性能を向上した定着装置

デジタルトナーHD

私たちは、独自開発の重合法トナーにさらに改良を加え、新重合法トナー「デジタルトナーHD」を開発しました。重合法トナーは、粉砕法トナーに比べて生産時のCO₂発生を30%以上削減できるという利点があります。「デジタルトナーHD」は、これに加えて、コピー時のエネルギーも約30%削減できます。

この省エネ性能を可能にしたのは、より低温で溶け出すようにトナー粒子の内側が柔らかく、それでいてトナー同士の密着を防ぐために外側が硬い「コアシェル構造」です。この技術によって、これまでの重合法トナーより20°C低い定着温度でも、美しい画像がプリントできるようになりました。

これらの新技术を搭載したデジタルカラー複合機「bizhub C650/C550」が、2007年度の「省エネ大賞 資源エネルギー庁長官賞」を受賞しました。



い つ も、 社 会



愉

LIVING ROOM

リビングで

より薄く、軽く、美しく。

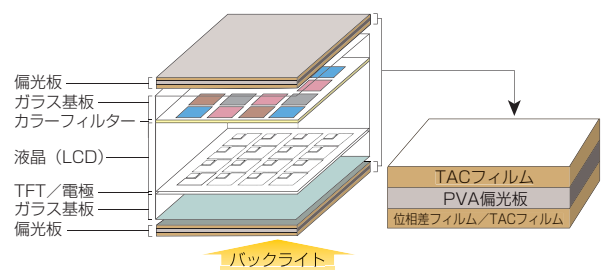
液晶ディスプレイを護る極薄膜のTACフィルム。

液晶偏光板保護用TACフィルム

テレビ、パソコン、携帯電話、さらにはカーナビなどに使用される液晶ディスプレイは、私たちの生活を愉しく、色あざやかに彩っています。薄くて軽く、しかも省エネルギーである液晶ディスプレイは、もっとも身近な“環境技術”であると言えるでしょう。

コニカミノルタは、この液晶ディスプレイの偏光板の保護材料である、トリアセチルセルロースフィルム(TACフィルム)の厚さを従来の半分にした薄膜タイプを開発。使用する材料資源を半減させたことで、省資源にも寄与しています。これからも技術開発を進め、多彩な製品群を取り揃えることで、年々高画質化する液晶の幅広いニーズに応えていきます。

液晶ディスプレイの構造



と、とともにもに。



MEDICAL TREATMENT

医療の場で

地域社会で活躍する医師を応援する
医療情報管理システム。



REGIUS (レジウス) クリニックシステム

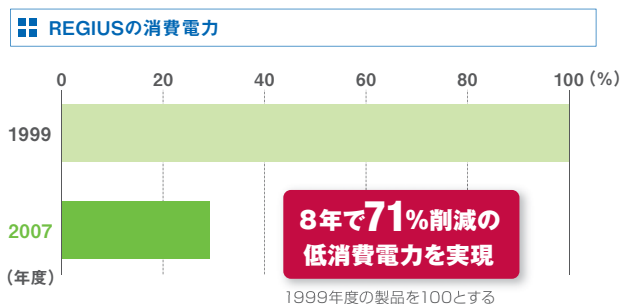
レントゲンや内視鏡などの画像をフィルムでなくデジタルデータとして処理・活用するCR^{*1}は、画像の処理・検索が容易で、薬剤による現像も不要であり、環境に配慮したシステムとして注目されています。また、複数の医療現場をつなぐ情報共有ツールとしても、今後ますます役立てられるでしょう。

REGIUS (レジウス) クリニックシステム

コニカミノルタが開発した本システムは、主として診療所や小病院など、地域に根ざす“かかりつけ医”の診療活動を支援する目的で生まれました。そのため、CR本機、サーバ&ビューアといった構成機器は、コンパクト、シンプル、低消費電力、かつ高速処理を開発コンセプトとしています。

またCRとしての基本スペックに加え、レポート作成機能、電子保存機能、電子カルテとの画像連携など、診療現場をサポートする機能も搭載し、将来を見据えて、中核病院とのオンライン連携を可能とする拡張性も持たせました。

ここにもまた、コニカミノルタの光学技術・画像技術が結集されています。



※1…CR

Computed Radiographyの略で、コンピュータによるX線画像処理のこと。

コーポレートガバナンス

経営のスピードと透明性を高めるための、
企業統治のしくみを採用しています。

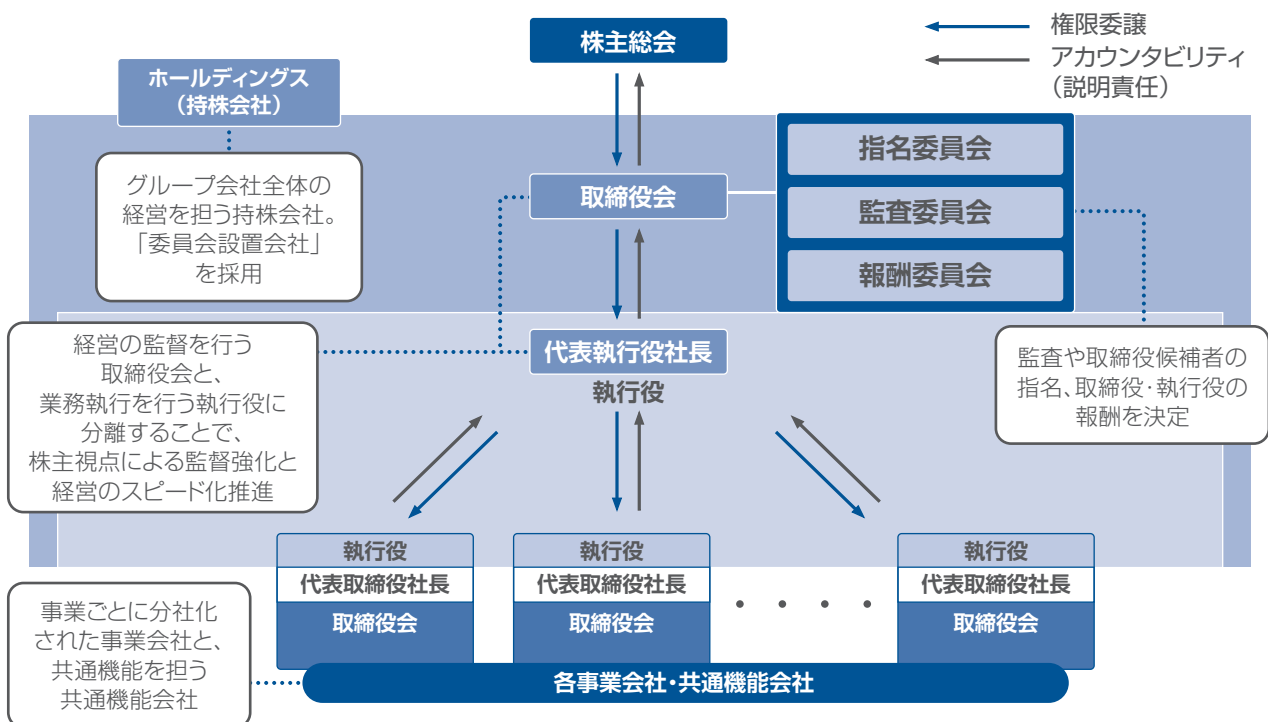
コーポレートガバナンスの考え方

コニカミノルタは、経営のスピードと透明性を高めるため、経営を執行する執行役と経営を監督する取締役の機能の分化、独立性を重視した社外取締役の選任などの施策を早くから進めてきました。さらに持株会社への移行と委員会設置会社への移行を同時に進め、急速な市場環境の変化にも迅速に対応できる事業体へと変革してきました。今後も、持株会社制を十分機能させるためのグループガバナンスの強化と、社会の一員としての存在感をさらに高めるためのコーポレートガバナンスの強化を、重要なグループの経営方針としていきます。

経営執行体制として 持株会社制を採用

コニカミノルタは、持株会社としてグループ全体の経営を担うコニカミノルタホールディングス(株) (以下、ホールディングス) と、事業会社・共通機能会社による「分社化・持株会社制」をとっています。事業会社は、すべての事業を分社化することで経営判断をスピードアップし、それぞれの専門性を活かして競争力を強化します。共通機能会社は、基礎研究や間接業務を集約することで、グループ全体の業務の効率化と機能強化を図ります。こうした体制によって持株会社は、より統率のとれたグループ経営と企業統治に力を集中することができます。また、持株会社・事業会社・共通機能会社にはそれぞれ監査機能が設けられ、互いに連携することで、グループ全体の経営の健全性・効率性・透明性を高めています。

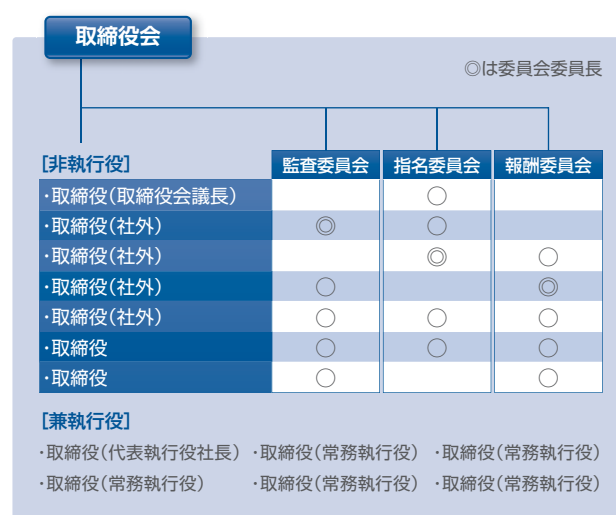
■ コニカミノルタのコーポレートガバナンス体制



委員会設置会社

コニカミノルタは、持株会社に「委員会設置会社」を採用しています。これは、グループ全体の経営のスピードと透明性を高めるために、経営の監督を行う取締役会と、業務を執行する執行役に機能を分ける仕組みです。取締役会には監査・指名・報酬の3つの委員会があり、3委員会の委員長はすべて社外取締役とし、構成メンバーには執行役を加えていません。業務執行の内容は監査委員会の監査と取締役会の監督を受けます。

取締役会と3委員会の構成



取締役会の活性化

2007年度は、取締役会をほぼ月1回のペースで開催しましたが、取締役会、3委員会への社外取締役の出席率は全体で90%を超えています。取締役会で活発な議論ができるよう、社外取締役には執行役または事務局が事前に議題の内容を十分に説

明する体制を組んでいます。また、毎年、取締役全員により「取締役会の自己評価」を行っています。これらを集約し議論することで、コーポレートガバナンスの充実に努めています。

グループ監査体制

委員会設置会社であるホールディングスには監査委員会を、事業会社・共通機能会社・関係会社には監査役を設置しています。さらに、ホールディングスにはグループ全体の内部監査機能を担う経営監査室が設置されています。監査委員会・経営監査室・各社監査役は、「監査連絡会議」を3カ月に1回開催し、情報の

共有化や監査活動の連携を強めています。また会計監査人とも定期的に協議を行い、監査体制・方針、会計監査人の職務遂行が適正に行われる体制ができているかなどの確認を行いながら、実効ある監査を目指しています。

2007年度CSR活動の概要と今後の課題

コニカミノルタのCSR活動の基本は、グループ行動憲章の実践です。2007年度のCSR活動の概要と今後の課題を、ご報告します。

2007年度CSR活動の概要			
環境の 保全	地球温暖化防止への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品ライフサイクルCO₂排出量^{※1}は、2007年度目標70.5万トンに対して、58.2万トンに抑制し達成しました。 ● 日本のグループ全事業所でのCO₂排出量は、2007年度目標32.0万トンに対して、26.4万トンに抑制し達成しました。 ● 米国・欧州・アジアの生産事業所でのCO₂排出量は、2007年度目標9.5万トンに対して、8.0万トンに抑制し達成しました。 	
	循環型社会への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 全世界の生産事業所の排出物総量は、2007年度目標20.5千トンに対して、ゼロエミッション活動^{※2}により23.9千トンまで抑制しましたが、未達成でした。日本は目標13.5千トン、実績13.7千トンで未達成、米国・欧州・アジアは目標7.0千トン、実績10.3千トンで未達成でした。 	
	化学物質リスクの低減	<ul style="list-style-type: none"> ● 全世界の生産事業所でのVOC(揮発性有機化合物)の大気排出総量(リスク換算^{※3} 2000年度比)は、2007年度目標の90%削減に対して、89%の削減で未達成でした。 	
商品の 有用性・ 安全性		<ul style="list-style-type: none"> ● お客様満足の上昇のため、さまざまな事業分野でお客様が期待する品質を定量的に評価する仕組みづくりを開始しました。 ● 製品構成と組立作業を分析し、従来よりもさらに、製品の安全性を確保する体制の強化を行いました。 ● デジタルカラー複合機「bizhub(ビズハブ)C650/C550」が、第18回「省エネ大賞 資源エネルギー庁長官賞」を受賞しました。 ● デジタルカラー複合機「bizhub C650/C550/C451」が、優れたオフィス機器として、米国BLI^{※4}より2007年秋の“Pick of the Year”を受賞しました。 	
	公正・ 透明な 企業活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本、米国、欧州の、地域別の優先課題に対応したコンプライアンス教育を展開しています。 ● お客様満足の実現と社会的責任を果たすために、グループ調達方針を策定しました。 ● 財務報告の信頼性をより強固にするために、2006年度から継続して金融商品取引法^{※5}対応に取り組みました。 	
		社会との コミュニケーション と情報の開示	<ul style="list-style-type: none"> ● 株主・投資家の皆様には、コニカミノルタの企業活動をよりご理解いただくために、多くの情報を積極的に開示する活動を行いました。 ● お客様に、商品・サービスをご紹介する展示会などのコミュニケーションを行いました。 ● 全世界のグループ従業員を対象にした「グローバルグループ報」を創刊し、情報の共有だけでなくコミュニケーションの強化を図りました。 ● 「調達コラボレーションシステム」によるお取引先とのコミュニケーションを、継続して行っています。
			社会への 貢献
社員の 尊重	<ul style="list-style-type: none"> ● 働きやすい職場環境づくり、人材育成、従業員の育児支援などの施策を実施しました。 		

※1…製品ライフサイクルCO₂排出量
生産段階での事業所からのCO₂排出、製品が出荷された後の物流時のCO₂排出、お客様による製品使用時のCO₂排出を合計したCO₂排出量。

※2…ゼロエミッション活動
排出物の再資源化を進め、埋立廃棄物を減らす活動。

※3…リスク換算
VOCの大気排出の影響によるリスクを、直接的なヒト健康影響リスクと大気汚染リスクの和で定義した、コニカミノルタ独自のリスク管理指標。

※4…米国BLI
Buyers Laboratory Inc.の略。米国で高い信頼を得ているビジネスユーザー向けオフィス機器に関する民間評価機関。数カ月にわたる厳格で実践的な試験を独自に実施しており、その結果を基に発行されるレポートは高い評価を受けている。

※5…ユニバーサルデザイン
障がいの有無、年齢、性別などにかかわらず多様な人々が利用可能であるように、製品、建物、空間をデザインすること。

参照頁	今後の課題
P.19-20 P.22 P.23	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの「地球温暖化防止への取組み」、「循環型社会への対応」、「化学物質リスクの低減」の3つの基軸を継続し、グループ従業員全員参加により、さらにレベルアップした新たな「環境ビジョン」の策定と推進
P.25 P.26 P.26-28	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様視点での製品・サービスのあり方のより一層の追求 ● 生産段階での製品安全監視に加え、開発・設計段階での監視強化による製品安全の充実 ● ユニバーサルデザイン^{※5}と情報セキュリティ^{※6}の推進
P.30 P.31 P.32	<ul style="list-style-type: none"> ● コニカミノルタグループ行動憲章のさらなる徹底 ● 地域別の優先課題に対応したコンプライアンスの徹底 ● サプライチェーン^{※7}でのCSRの推進 ● 財務報告の信頼性にかかわる内部統制のさらなる向上
P.34 P.35-36 P.36 P.37	<ul style="list-style-type: none"> ● ステークホルダー^{※9}の皆様から信頼をいただくための、さまざまなステークホルダーエンゲージメント^{※10}の強化
P.40 P.41~44	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバルな課題や地域の課題の解決につながる社会貢献活動の充実
P.46~48	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業の成長戦略に対応した人材の活性化

※6…情報セキュリティ

昨今のネットワーク時代においては、不正アクセス・ウイルス感染・情報漏洩などによる多大なリスクが問題となっている。これに対し、ユーザー認証、データ自動消去といったさまざまなセキュリティ機能を製品に搭載することで、お客様の情報を守ること。

※7…サプライチェーン

商品が最終消費者に届くまでの、開発・調達・生産・流通・販売といった、企業の壁を越えた一連の供給（サプライ）の鎖（チェーン）のこと。自社ばかりでなく、例えば原料や部品を調達する先の会社や、商品輸送を委託する会社などもサプライチェーンに含まれる。

※8…金融商品取引法

通称J-SOX法。近年、相次ぐ企業の不祥事を受け、企業の内部統制の重要性が指摘されている。日本では財務報告の信頼性を確保するため、2006年に「金融商品取引法」が成立し、2008年度から適用が開始された。

※9…ステークホルダー

お客様、お取引先、株主・投資家、従業員、地域社会の皆様など、企業活動を行う上でかかわるすべての利害関係者。

※10…ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーからの意見を取り入れて、経営の判断や、企業活動に活かすこと。

地球への負荷は小さく、ヒトへの価値は大きく。

くらしに役立つ商品やサービスの提供は、私たちの当然の仕事。

次の世代のために地球環境への負荷を、より小さくすることは、私たちの重要な責任です。

コニカミノルタは、「環境負荷の最小化と同時に経済的価値を最大化する」環境経営を全世界で推進し、製品ライフサイクルを通じた環境負荷の削減を続けます。

製品ライフサイクルで CO₂を減らします

●地球温暖化防止

地球温暖化防止は、メーカーにとって最も重要な社会的責任のひとつです。コニカミノルタグループでは、製品ライフサイクルの視点に立って地球温暖化防止に取り組んでいます。生産段階での事業所からのCO₂排出はもちろんのこと、出荷された後の物流時、およびお客様での製品使用時のCO₂排出も含め、製品ライフサイクルのそれぞれの段階での排出量削減に取り組んでいます。

この考え方に基づき、生産時、物流時、製品使用時を含めて「製品ライフサイクルCO₂排出量を2010年度に2000年度比で20%削減する」という高い目標を掲げ、世界各国で取り組んでいます。2007年度実績は、2000年度比21.7%削減の58.2万トンでした。

■製品ライフサイクルでCO₂を削減

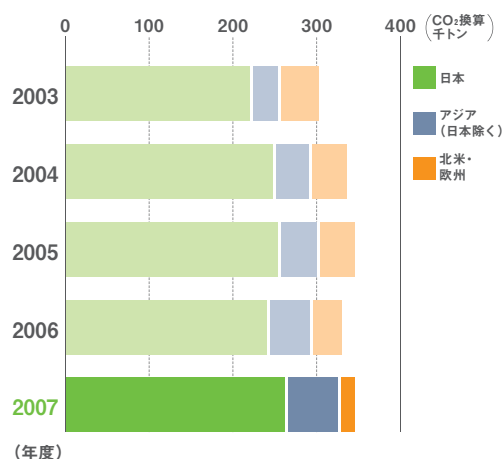


7%削減へ、 全世界で挑戦

●日本の事業所でのCO₂削減

日本では京都議定書を上回る「サイト(事業所)でのCO₂排出量を2010年度までに1990年度比で7%削減する」という目標で活動しています。2007年度のCO₂排出量は、26.4万トンと前年度比8.2%増(1990年度比では43.8%増)となりました。新工場において最先端の省エネ技術を盛り込むとともに、各事業においては生産効率の向上を行うことにより省エネルギーを推進しています。これら省エネ施策の実行による2007年度の削減効果量は4.5万トンである一方、工場の新設もあり、日本の事業所からのCO₂総排出量は増加となりました。今後、工場の増強、生産拡大によるCO₂増加要因はありますが、生産プロセスの改革を基本に、さまざまな施策を推進します。

■コニカミノルタグループの研究開発・生産拠点におけるCO₂総排出量の推移



グリーン電力を導入

コニカミノルタプラザ(東京・新宿)では、2008年3月以降の展示で使用するすべての電力について、環境負荷の少ないグリーン電力を導入しました。これは、風力、バイオマスなどで作られる電力の「環境付加価値」を購入し、この部分を「グリーン電力証書」という形で保有するシステムです。



環境をみつめた製品づくりが 賞をいただきました

●米国・欧州・アジアの事業所でのCO₂削減

米国・欧州・アジアでは「2010年度までに2000年度比で7%削減する」という目標で活動しています。2007年度のCO₂排出量は、8.0万トンと前年度比6.5%減(2000年度比では2.4%増)となりました。カメラ・フォト事業の撤退の影響により一時的にCO₂排出量が低減したものの、工場の新設や生産拡大により、2008年度以降CO₂の増加が見込まれます。2007年度は、エネルギー管理の専門家を中国の2工場に派遣し、エネルギーの使用状況や設備状況をチェックし省エネ施策を抽出する「省エネサポートプログラム」を開始しました。その結果、2工場とも使用エネルギーの約10%を削減できる施策の抽出を行いました。2008年度には抽出された施策を実行に移すとともに、同プログラムを他工場にも広げていきます。

■ 省エネサポートプログラム実施状況



コニカミノルタビジネステクノロジーズ(東莞)社



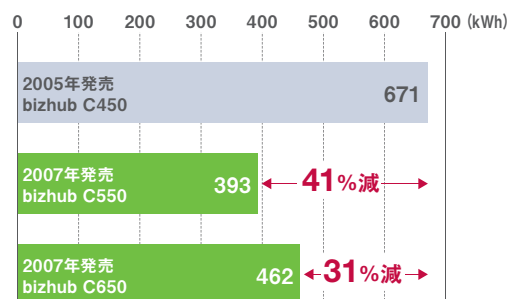
コニカミノルタ
オプティカルプロダクツ(上海)社

●省エネ大賞受賞

デジタルカラー複合機「bizhub(ビズハブ)C650」[bizhub C550]は、経済産業省主催の2007年度第18回「省エネ大賞(省エネルギー機器・システム表彰)資源エネルギー庁長官賞」を受賞しました。

2年前の製品^{※1}よりもコピー速度が2~4割速くなっているにもかかわらず、消費電力は3~4割削減し、お客様使用時のCO₂削減に貢献しています。さらに「bizhub C650」は、副電源^{※2}ONからの立ち上げ時間が30秒以下と高速です。

■ デジタルカラー複合機の年間消費電力^{※3}



Staff's Voice

スタンバイ時のエネルギー消費量ゼロが究極目標

CO₂排出の議論を背景として、今日ヨーロッパでは厳しいエネルギー目標が課せられています。コニカミノルタはすでにエネルギー消費量を低減した最先端の製品を製造していますが、私は、複合機では待機電力ゼロが究極の目標だと考えています。



コニカミノルタ
ビジネスソリューションズヨーロッパ社
製品安全・環境マネジャー

Wolfram Buchroth

※1...2年前の製品
bizhub C450

※2...副電源
各機能の動作に対する電源で、日常的な電源スイッチとして使用。これに対して主電源は、機器のすべての機能に対する電源で、通常はFAX待受けなどのために夜間でもONの状態にする。

※3...年間消費電力
数値は国際エネルギースタープログラムで定められた測定方法による標準消費電力(TEC)を52週(1年間)に換算したものの。

地球への負荷は小さく、ヒトへの価値は大きく。

Staff's Voice

包装材リサイクリング・センターを新設

私たち品質・環境チームは、グリーンハブ・リサイクリング・センターを立ち上げるために、倉庫スタッフとの密接な連携と協力体制をとりました。ここには包装材廃棄物の再利用・再資源化のための4台のマシンが設置されています。



ユニカミノルタ
ビジネスソリューションズ(UK)社
品質・環境担当

Natasha Ramnarain

資源を大切にする 設計思想

●リデュース設計

製品に使用する材料資源を削減するリデュース設計は、原材料から廃棄時にいたるまで、製品ライフサイクルを通じた環境負荷軽減に役立ちます。コニカミノルタでは環境配慮設計の一分野として、さまざまなリデュース設計を推進しています。カメラ付き携帯電話、車載カメラ、Webカメラなどに搭載されているマイクロカメラユニット／マイクロカメラ用レンズユニットでは、小型化、高機能化を追求し、最終製品の小型軽量化にともなう材料資源の削減に貢献しています。

また医療現場で活躍しているデジタルX線画像関連機器では、同シリーズが初めて発売された8年前の製品の重量に比べ、2007年発売の画像読取装置「REGIUS (レジウス) MODEL110」で71%削減、画像記録装置「DRYPRO (ドライプロ) MODEL832」で79%削減と、いずれも3分の1以下に軽量化されています。



マッチ棒よりも小さい
マイクロカメラユニット



デジタルX線画像読取装置
「REGIUS MODEL110」

世界にひろがる リサイクルの輪

●流通・販売におけるリサイクル

レーザープリンタの使用済みトナーカートリッジの回収リサイクル制度を、欧州18カ国・米国・プエルトリコ・日本で展開しています。また、使用済み情報機器本体の回収リサイクルについては、欧州・米国・日本で回収プログラムを実施しています。

包装材の削減とリサイクル活動も世界各地で行っています。英国の情報機器販売会社であるユニカミノルタビジネスソリューションズ(UK)社では、中央倉庫内に「グリーンハブ」というリサイクリング・センターを設け、使用済み包装材の埋立廃棄物ゼロを達成しました。そこでは、段ボール・収縮包装用フィルム・パレットなどの各種包装材が、材質ごとに分別され、機械によって圧縮されてリサイクル業者へ渡されます。また、段ボール箱を専用のシュレッダーにかけ、梱包用緩衝材として内部リサイクルしています。



機械で排出物をコンパクトに



段ボール専用シュレッダー

地球の各地で ゴミを減らす活動

●ゼロエミッション活動

コニカミノルタグループでは、「サイト(事業所)排出物の総量を2010年度には2000年度比で20%削減」という目標を掲げ、環境負荷の低減とロス低減を進めています。この目標を達成するために、生産拠点では「排出物を再資源化し、埋立廃棄物を究極まで減らす」というゼロエミッション活動を推進しています。活動は、レベル1^{*1}とレベル2^{*2}の2段階で、拠点ごとに進めます。レベル1では排出物の再資源化を行い、埋立物を減らします。レベル1を達成した生産拠点よりレベル2に移行し、売上高あたりの排出物量の削減を行います。

日本では、レベル1を2006年度にすべて達成済みで、レベル2は2007年度に新たに6拠点が達成し、これですべての生産拠点がレベル2を達成しました。中国では、2007年度までに3拠点でレベル1を達成しています。

このゼロエミッション活動により、2007年度のグローバルでの廃棄物排出量を23%削減(2000年度比)しました。

今後は、生産規模の拡大による廃棄物の増加が予測されますが、当初の目標は変更せず、さらなる削減を図ります。ゼロエミッション活動も、米国・フランス・マレーシアの生産拠点も含めて、2008年度にレベル1、2009年度にレベル2を全生産拠点で達成させる計画です。

再資源化率 97%を達成

●中国のゼロエミッション達成拠点

2008年1月、中国における光学デバイス製品の生産拠点であるコニカミノルタオプティカルプロダクツ(上海)社はゼロエミッションレベル1を達成しました。

「緑色家園」と名づけた改善プロジェクトを開始し、社内での徹底した分別などによる再資源化活動の実践や、適正に再資源化できる処理業者を日本と同じ基準で評価するなど、再資源化率向上のための活動を続けています。さらに、内部リサイクルの取組みとして、製品のプラスチック端材を生産工程で使用するトレーに再利用しています。

その結果、再資源化率が97%、最終処分率が3%となり、また排出物処理のために外部に支払う費用を大きく上回る利益が得られました。

このことは、中国の新聞やインターネットで数多く取り上げられ、コニカミノルタの環境経営が中国社会に広く理解されました。



達成トロフィーの授与

Staff's Voice

全社を挙げて
ゼロエミッションレベル2の
達成へ

2008年1月、私たちはゼロエミッションレベル1を達成しました。これまでの活動をさらに強化しながら、より高度なゼロエミッションレベル2の達成に向けて、外部排出物量の削減目標達成に全社を挙げて取り組み、「人と環境に調和した企業活動」を進めます。



コニカミノルタ
オプティカルプロダクツ(上海)社
環境担当

庄韵
Zhuang Yun

※1…レベル1
コニカミノルタ・ゼロエミッションレベル1基準。再資源化率:90%以上、最終処分率:5%以下(2次残渣も含む)、費用削減:外部支払費用を上回る有価売却益もしくは施策効果。

※2…レベル2
コニカミノルタ・ゼロエミッションレベル2基準。売上高あたりの外部排出物量30%削減(ベンチマーク年度に対して)。

地球への負荷は小さく、ヒトへの価値は大きく。

Staff's Voice

製品の設計から
リサイクルまで

環境に配慮した設計から、使用後のリサイクルにいたるまで、製品のライフサイクル全体を通じた管理の実践によって、コニカミノルタはいつそう環境にやさしくコスト効果の高い製品をお客様に提供し続けています。



コニカミノルタ
ホールディングスU.S.A.社
環境保全センター

Timothy D. Ringo

※1…PPC用紙
コピー用紙のこと。PPCはPlain Paper Copier（普通紙複写機）の略。

※2…VOC
VOC（揮発性有機化合物）は、洗剤や溶剤、燃料として幅広く使用され、光化学スモッグなどの公害やシックハウス症候群などの健康被害を引き起こす有害物質として、近年懸念されている。

※3…リスク換算
VOCの大気排出の影響によるリスクを、直接的なヒト健康影響リスクと大気汚染リスクの和で定義した、コニカミノルタ独自のリスク管理指標。

環境負荷の低減に、 一緒に取り組みます

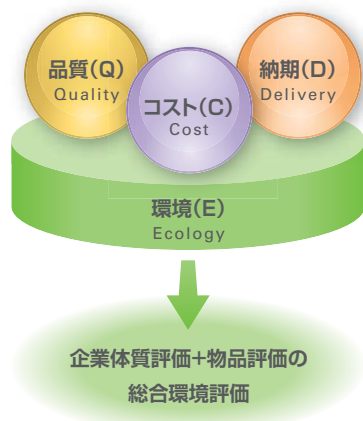
●グリーン調達への推進

コニカミノルタグループでは、環境負荷の少ない材料・部品を調達する「グリーン調達」を行っています。中でもサプライチェーンにおける含有化学物質管理には、特に重点をおいています。

情報機器の部品調達では、日本と中国のすべてのお取引先の製造事業所に直接出向き、化学物質管理体制の強化をお取引先とともに進めてきました。その結果2007年度は、環境管理レベルが最高のAランクであるお取引先の割合が、年度始めの60%から年度末の80%超へと改善が進みました。

また、日本の情報機器販売会社であるコニカミノルタビジネスソリューションズ(株)では、お客様に販売するコピー用紙について、森林の破壊や劣化に配慮して調達することを定めた「PPC用紙^{※1}購入基準」を策定し、2007年度より運用を開始しています。

■ コニカミノルタのグリーン調達概念図



有害物質に、 チェック&監視の目

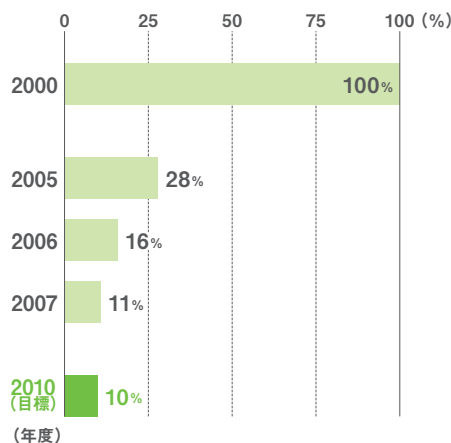
●生産拠点での化学物質管理

製品や生産現場で、有害な化学物質が不用意に使われないよう、「安全性確認システム」ですべての化学物質についてチェックを行っています。

また、やむを得ず生産現場で使用しているVOC^{※2}については、「VOCの大気排出総量(リスク換算^{※3})を2010年度には、2000年度の1/10に削減する」という目標を掲げています。2007年度は、2000年度の11%まで削減しました。

土壌・地下水に関しては、調査の結果、日本の9カ所で汚染が判明していますが、これに対して専門チームを編成し、浄化と定期観測による監視を続けるなど対策を進めています。それぞれの状況については、ホームページなどで情報を公開しています。

■ VOC大気排出総量(リスク換算2000年度比)



地域の皆様から 多くのことを学びます

●地域環境報告会

2007年度も、東京サイト(東京都)・瑞穂サイト(愛知県)・伊丹サイト(兵庫県)で、「地域環境報告会」を開催しました。この報告会は、工場での環境保全の取り組み内容を地域の皆様にご覧いただくために2002年から毎年開催しています。2007年度は、新たに大阪狭山サイト(大阪府)でも開催しました。

サイト代表者のあいさつに続き、それぞれのサイトレポート(工場の環境・社会報告書)に基づき、環境の取り組みをはじめ安全防災や地域交流などの状況を報告しました。さらに、地域住民の方々に構内各所をご覧いただいた後、全体での意見交換や質疑応答の時間をもちました。この報告会では毎年、地域の皆様から多くのことを教えていただいています。



地域の方々との意見交換

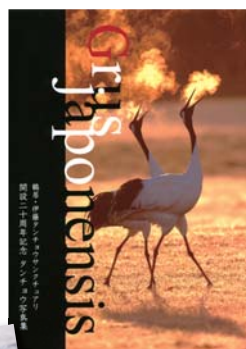
タンチョウ保護の チャリティ活動も20周年

●タンチョウ保護の支援

日本のタンチョウ^{※4}は、生息環境の悪化によりその数が激減し、一時は絶滅の危機に瀕していました。しかし、1987年に日本野鳥の会が「鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ(保護区)」を設立し、地域住民や関係団体とともに保護活動を行ってきた結果、現在では1,000羽を超えるまでに増加しました。コニカミノルタはサンクチュアリ設立以来、保護活動の支援を続けています。

2007年はサンクチュアリ設立20周年にあたるため、これまで実施してきた「コニカミノルタ・タンチョウチャリティ フォトコンテスト」の入選作品から約40点を選んだ写真集を作成し、これによるチャリティ活動も行いました。

※4…タンチョウ
全身白色で頭頂部が赤い大形の鶴で、ユーラシア東部と日本の北海道に分布している。



20周年記念写真集



私たちが、お客様に届ける付加価値。

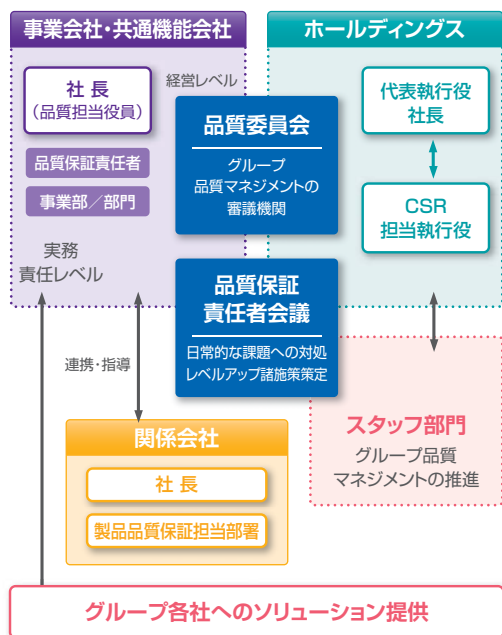
私たちコニカミノルタは、単なる製品・サービスの供給者ではなく、お客様が真に求める価値を提供する企業であり続けたいと考えます。そうした事業活動の一環として、オフィスユースの製品における利便性と機能性、さらには快適性を追求しています。

品質を追求する マネジメントシステム

●品質マネジメント体制

グループ全体の品質責任を担う役割を「CSR担当執行役」が担当し、各事業会社・共通機能会社においては、品質責任を担う「品質担当役員」を置いています。さらに「CSR担当執行役」を委員長とし、「品質担当役員」を構成員とする、品質に関するグループ審議機関である「品質委員会」を設置しています。この「品質委員会」を中心にグループ全体における品質マネジメントを推進しています。2007年度に、お客様満足の向上のため、さまざまな事業分野でお客様が期待する品質を定量的に評価する仕組みづくりを開始しました。

■ グループ品質マネジメント体制

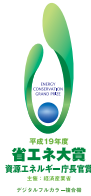


品質問題発生時の 迅速な対応

●ワールドワイドの情報の共有と対応

コニカミノルタでは、品質問題が発生した場合、お客様最優先と品質第一の大原則に則り、迅速かつ的確な対応と再発防止の徹底を図っています。全世界の販売・営業拠点では、品質事故が発生した場合、ワールドワイドで運用している「市場品質速報データベース」に、24時間以内に報告を入力し、即座に事業会社やコニカミノルタホールディングス(株)に情報が共有化され、必要に応じてCSR担当執行役から速やかにグループトップまで報告されます。万一、製品の安全にかかわる緊急な事故が発生した場合は、「市場品質管理規程」に基づいて「品質問題対策会議」を開催し、迅速な対応を行う仕組みとなっています。

「bizhub C650シリーズ」が省エネ大賞を受賞



コニカミノルタのデジタルカラー複合機「bizhub(ビズハブ) C650/C550」は、2007年度、第18回「省エネ大賞(省エネルギー機器・システム表彰)資源エネルギー庁長官賞」を受賞しました。トナーの融点を下げた「デジタルトナーHD」の導入など、消費エネルギーの大幅な削減を達成した技術が評価されたものです。



法的基準を超えた 独自の取組み

●製品安全の取組み

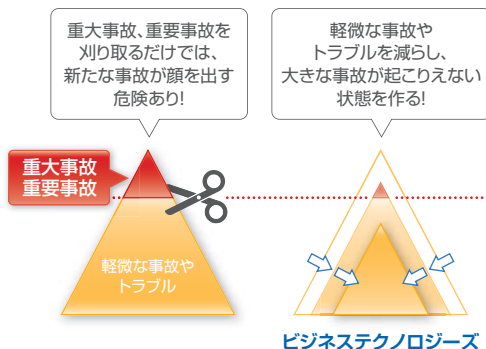
「製品安全」は、メーカーにとって最優先課題であり、コニカミノルタでも最大限の取組みを行っています。

コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)(以下、ビジネステクノロジーズ)では、さまざまな法律の遵守や法規制を超える厳しい社内安全基準を定め、独自の「電気安全設計基準」「安全性評価体制」によって、部門横断的に製品の安全を確保する仕組みを構築しています。

製品安全に対する基本的な考え方は、重大事故の発生を抑止するためには、まず製品が軽微な不具合やトラブルを起こさないようにすることです。

2007年度、ビジネステクノロジーズでは、製品構成と組立作業を分析し、従来よりもさらに、製品の安全性を確保する体制の強化を行いました。

■製品安全に対する基本的な考え方(ビジネステクノロジーズ)

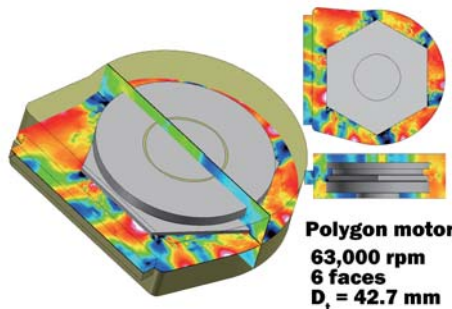


●技術進歩を先読みした解析技術の開発

ビジネステクノロジーズでは、日進月歩で情報技術やソフトウェアが高度化する中、革新的な技術を、不具合のない商品の形で確実にお客様にお届けするために、常に最新の技術を正しく評価できるよう、品質保証部門での評価技術の強化に取り組んでいます。

たとえば、オフィス製品の開発段階では見落とされがちな音の評価技術では、東京大学と共同で、製品の音の発生メカニズムを解析する技術を開発しました。これにより、快適なオフィス環境につながる低騒音の製品開発が可能になりました。

■ポリゴンモータ※1周辺の空気の圧力分布



(東京大学 加藤千幸研究室との共同研究)

Staff's Voice

お客様の立場で、最高の価値を提供します

高度な技術、先進的な機能もお客様に認められてこそ、初めて価値を持ちます。「お客様に最高の価値を提供できているか?」これが私たち品質保証部門の製品・サービスに対する最大の判定ポイントなのです。



コニカミノルタ
ビジネステクノロジーズ株式会社
品質保証統括部 品質企画部
課長

飛田 啓輔
Keisuke Tobita

※1…ポリゴンモータ
デジタル複写機などのレーザー書き込み系に用いられるモータで、ポリゴンミラーを高速回転する。

私たちが、お客様に届ける付加価値。

Staff's Voice

「使ってみたい!」を
デザインする

必要な機能を確実に使えるのは、今や当り前の話です。これからは、お客様が仕事を進める上で、心地良さや楽しさをも感じることでできる価値を、デザインを通じてご提供していきます。お客様に「使ってみたい!」と感じていただける。そんなユニバーサルデザインを目指します。



コニカミノルタ
テクノロジーセンター株式会社
デザインセンター
チーフデザイナー

磯貝 嘉孝
Yoshitaka Isogai

※1…RoHS
Restriction of Hazardous Substancesの略。電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する指令。

※2…REACH
Registration, Evaluation, Authorization of Chemicalsの略。EU(欧州連合)において年間1トン以上の化学物質を製造・輸送する業者に対して、必要に応じリスク評価を義務づける規則。

※3…EuP
Energy-using Productsの略。EU(欧州連合)においてエレクトロニクス製品の省エネ設計を指示した指令。

「安心」という名の 付加価値

●安心・安全・快適な製品づくり

お客様に安心・安全にお使いいただける製品をご提供するため、各国の法規や安全規格への適合にとどまらない、より厳しい自主基準値を定め、製品開発の各段階でPL(製造物責任)評価を行っています。

また、製品の有害物質含有を厳しく規制する欧州RoHS^{※1}にも準拠し、さらには今後、欧州で運用が開始される新たな化学物質規制REACH^{※2}や、エネルギー使用製品のエコデザインに関する枠組み指令EuP^{※3}に向けた作業を着々と進めています。

また、デジタル複合機/レーザープリンタなどの情報機器では、日本の「エコマーク」や、使用時に発生する騒音や振動、VOC(揮発性有機化合物)の放散などを厳しく規制したドイツの「ブルーエンジェルマーク(BAM)」の認証基準のクリアに積極的に取り組み、快適にお使いいただける製品をご提供しています。

2007年度は、オゾン排出量と騒音レベルでのカラープリント基準の追加とともに、オゾン排出量や省エネ基準がより厳しくなって改訂されたBAMにおいても、デジタル複合機bizhub(ビズハブ)シリーズでいち早く対応を進めたことで、13機種が認証を受け業界一の実績となりました。



ブルーエンジェルマーク

「使いやすさ」という 付加価値

●ユニバーサルデザインの追求

コニカミノルタは、さまざまな方にできるだけ同じように簡単に心地よくお使いいただけるよう、ユニバーサルデザインという考え方に基づいた製品づくりを進めています。そういった心地よい操作性は、細かな配慮の積み重ねから生まれます。デジタル複合機bizhubシリーズは、見やすい表示、押しやすい操作ボタン形状、紙が取り出しやすい排紙部の表面加工、手をかけやすい給紙トレイのグリップなど、すみずみまで、きめ細やかな工夫をこらしています。



ユーザーを識別する セキュリティ機能

●情報セキュリティの追求

ユーザー認証機能・部門管理機能をはじめ、ネットワークからの不正プリントを防ぐIPフィルタリング機能や、ハードディスクに読み込まれたドキュメント情報をデータ上書きにより完全消去するデータ消去機能など、さまざまなセキュリティ機能をデジタル複合機に搭載しました。

またデータの暗号化など、お客様が安心してお使いいただくために必要な基本セキュリティ機能を、一部製品を除き標準仕様で搭載しています。

さらに「bizhub C650/C550」では、指の静脈パターンを利用したバイオメトリクス(生体認証)により、簡単にスピーディに精度の高い認証が行える「生体認証装置AU-101」をオプションで用意しました。パスワード入力やカードの携行などの必要がなく、指をかざすだけで簡単に認証が行えるうえ、偽造が困難な静脈パターンという個人の特徴で判別することにより、パスワードやカードの盗用といった不正の余地がなく、一層確実なユーザー単位の利用権限設定と利用管理が行えます。



「生体認証装置AU-101」による
指先のデータ読み取り

お客様をみつめた製品づくりが、 うれしい受賞

●Pick of the Year 受賞

コニカミノルタのデジタルカラー複合機「bizhub C650/C550/C451」が、米国BLI (Buyers Laboratory Inc.)より2007年秋の“Pick of the Year”を受賞しました。BLIは、45年以上の間、米国で高い信頼を得ているオフィス機器に関する民間評価機関です。“Pick of the YEAR”はBLIによる厳しい評価テストで優れた機能を発揮したオフィス機器に与えられます。今回、「bizhub C650/C550/C451」の優れた操作性と高画質、使いやすさを追求したデザイン、各種セキュリティ機能などが高い評価を受けての受賞となりました。

「bizhub C650/C550/C451」は、ユニバーサルデザインや情報セキュリティ、ネットワーク機能など、オフィスユースに向けた多様な付加価値を結集したデジタルカラー複合機であり、コニカミノルタの代表作のひとつです。今回の受賞は、お客様志向のより優れた製品づくりを目指す、コニカミノルタの技術力が評価されたものと考えています。



“Pick of the Year”受賞

私たちにとって、もっとも大切なルール。

常に公正・透明であることが、コニカミノルタの企業活動のもっとも大切なルールです。

そのために、グループで働く一人ひとりが、法令の遵守にとどまらず、

企業倫理に基づき責任をもって行動します。

公正・透明な企業活動のための、私たちのコンプライアンス体制についてご紹介します。

私たちの考える コンプライアンス

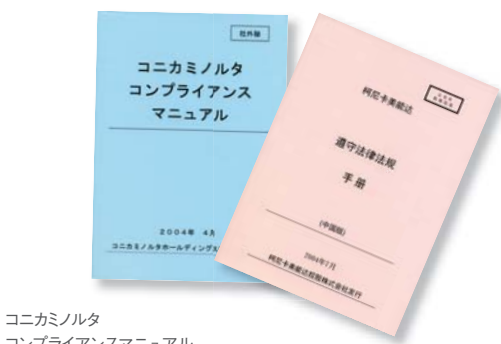
●コンプライアンスの範囲

私たちが考えるコンプライアンスは、単に各国の法令を遵守するというだけではありません。企業倫理や社内規則類までを幅広く含んでいます。

■ コニカミノルタグループのコンプライアンスの範囲



コンプライアンス行動指針を従業員が日々の仕事の中で実践できるよう、「コニカミノルタコンプライアンスマニュアル」を作成・配布しています。現地の法令に対応した中国版も作成しました。



コニカミノルタ
コンプライアンスマニュアル

従業員一人ひとりの コンプライアンス行動指針

●コニカミノルタグループ

コンプライアンス行動指針(抜粋)

【基本姿勢】

私たちは、国内外の適用ある法令及び社内規則類を遵守します。

私たちは、社会的規範を尊重し、企業倫理を十分に認識して良識と責任をもって行動します。

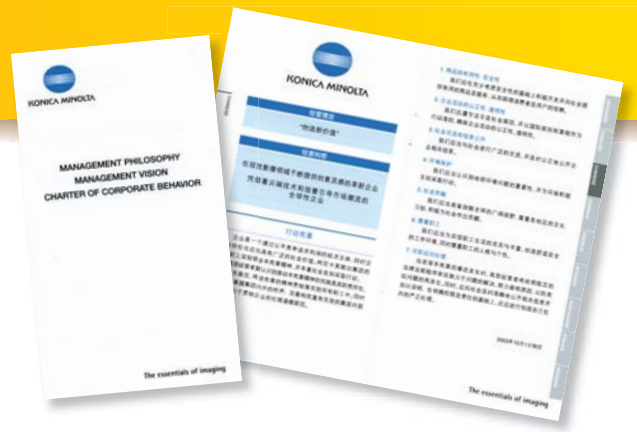
私たちは、この「行動指針」の内容を深く理解し、常に行動の拠りどころとします。

私たちは、「利益のため」、「会社のため」、「上司の指示」、「以前からやっている」、「他社がやっている」とか、「この業界、この国では、あたり前」であっても、この「行動指針」に反する行為をしません。

このコンプライアンス行動指針は、グループガバナンスを貫くものとして、あらゆる企業活動の中で最優先に位置づけられています。この基本姿勢を基に、「商品・サービス」「公正な取引・関係」「輸出入手続・規制」「機密情報・知的財産権の保護」「情報開示・コミュニケーション」「環境の保全」「社会への貢献」「反社会的勢力との対決」「社員の尊重」「社内規則類」について、合計40項目の行動指針が定められています。

行動憲章を世界に配布

グローバルなコンプライアンス活動を推進するために、「コニカミノルタグループ行動憲章」を9カ国語(日本語、英語、中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、ロシア語)で併記した冊子を作成し、世界のグループ企業で働く一人ひとりに配布しています。



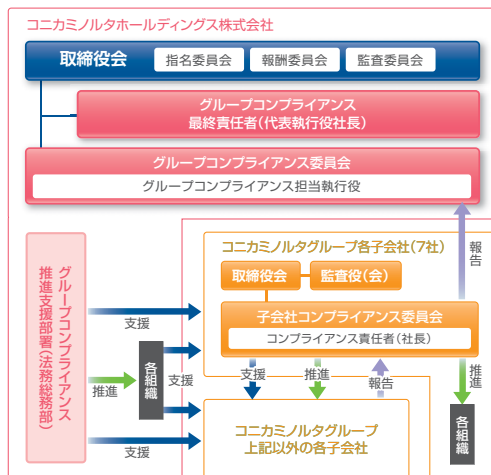
その心を、グループワイド・ワールドワイドに

●コンプライアンスの推進体制

企業活動の公正さ・透明さを守りぬく心は、グローバルに活動するグループ全体に広がっています。コニカミノルタでは、2006年5月に会社法が施行される以前より、委員会等設置会社の法令によるコンプライアンス体制を整えてきました。持株会社の取締役会が任命した担当執行役が、諮問委員会であるコンプライアンス委員会を設置しています。

この委員会は、各事業会社・共通機能会社に設置されたコンプライアンス委員会の委員長によって構成されます。このようにして持株会社からグループ会社まで、各社のトップを最終責任者とした強力なコンプライアンス推進体制を構築し、世界にひろがるすべての関連会社のコンプライアンス活動を統括しています。

■コンプライアンス推進体制



コンプライアンスを指針から実践へ

●コンプライアンスの推進状況

2007年度、日本では、独占禁止法(632名参加)、下請法(372名参加)、個人情報保護法(256名参加)について、グループ各社の従業員による自主的参加型のセミナーによりコンプライアンス教育を行いました。ハラスメント防止(1,305名参加)については、グループの全管理職対象に教育を行いました。また、2007年度も継続して、階層別教育として、コンプライアンス教育を実施しました(合計500名参加)。

米国では、弁護士資格を持つ従業員が講師となって、競争法、セクシュアルハラスメント、輸出入規制などの教育を行っています。欧州では、環境法令関連・競争法などについて、ハンドブックなどの作成などを通じて教育を行っています。

全コニカミノルタグループ企業は、コンプライアンス推進状況を定期的に報告することが義務づけられており、コンプライアンス教育とあわせて、グループ全体でコンプライアンスの徹底を図っています。



ハラスメント教育

Staff's Voice

すべての従業員による
価値観の共有化を
目指します

グループの全員が自分の仕事に誇りを持って進めることができるように、コンプライアンス推進に取り組んでいます。コニカミノルタのコンプライアンスは、「明文化された法令などだけを守る」という消極的な考え方は不十分だと考えています。倫理的な気風を高め、「正しい行動をしよう」という価値観の共有化を目指しています。



コニカミノルタ
ホールディングス株式会社
法務総務部
マネジャー

田口 裕治
Yuji Taguchi

私たちにとって、もっとも大切なルール。

お取引先と、 オープンでフェアなパートナーに

●グループ調達方針

コニカミノルタでは、2008年4月1日、お客様満足の追求と社会的責任を果たすために、グループ共通の新しい調達方針を策定しました。

【コニカミノルタ調達方針】

私たちコニカミノルタグループは「新しい価値の創造」の経営理念のもと、社会の発展に寄与する革新的な製品・サービスを創出し、お客様の満足を追求します。調達活動においては透明・公正を基本としてお取引先と強いパートナーシップを築き、ともに社会的責任を果たすことにより、持続可能な社会の実現を目指します。

OPEN	私たちは、常に透明で信頼される姿勢でお取引先と接し、長期的かつグローバルな視点から目標の共有化ができる開かれた調達を実践します。
FAIR	私たちは、自由競争の原則のもと、合理的な評価尺度に基づき取引を行うものとし、お取引先との相互利益を追求します。
GLOBAL	私たちは、グローバルな視点から最適な地域での調達を実践します。
COMPLIANCE	私たちは、各種法令、企業倫理、社内規則類を遵守します。
ECOLOGY	私たちは、地球環境の保全、生態系への影響低減に率先垂範して努めることにより、国際・地域社会へ貢献します。

..... お取引先へのお願い

お取引先と強いパートナーシップのもと、お客様の満足を追求し、合わせて社会的責任を果たすため、お取引先の皆様には以下の項目への取り組みをお願いします。

① 優良な品質

各国・地域の安全規格の遵守をはじめとした製品・サービスの安全性の確保と、お客様の求める品質の維持・向上

② 適正価格

市場競争力のある価格の追求

③ 需要変動への対応

需要変動に柔軟に対応できる安定供給体制の整備

④ 法令、企業倫理の遵守

各国・地域の関連する法令、企業倫理の遵守

⑤ 環境保全への対応

環境に配慮した事業活動、資材調達の展開

⑥ 労働者の人権の尊重

児童労働・強制労働の禁止や人種・性別その他による差別禁止など、基本的人権の尊重

⑦ 安全衛生

安全で清潔な労働環境の整備

⑧ 情報セキュリティ

情報セキュリティの継続的改善

⑨ 安定した経営基盤

継続的かつ安定した資材供給確保のため、経営基盤安定化の推進

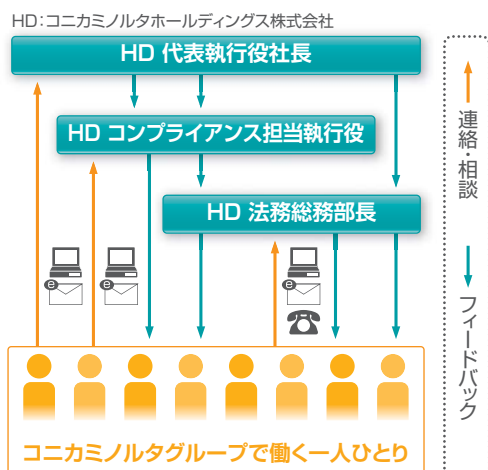
コンプライアンスをみつめる ホットライン

●ヘルプラインの開設

従業員がコンプライアンスに反する行為を発見した場合に通報できる窓口としてグループヘルプラインを設置し、電話やeメール、手紙での相談を受け付けています。さらに日本では各事業会社が、それぞれの子会社を含めた各事業会社グループの通報窓口を設置しており、日本以外のグループ会社においても独自に通報窓口を設けているところがあります。

2007年度、グループヘルプラインへの通報は、グループ全体で10数件あり、有効に運用されています。通報内容に対しては、通報者に配慮しながら調査などを実施し、速やかな改善指示を行いました。なお、ヘルプラインへの連絡・相談者が、その連絡・相談によって不利益を被ることはありません。

■ コニカミノルタグループヘルプライン



会計面の不正を防止する 仕組みづくりへ

●金融商品取引法への対応

会計面で企業の不正を防止するために、日本でも金融商品取引法(J-SOX法)が2008年度決算から適用されます。

コニカミノルタグループは、4つのフェーズに分けた対応を進めてきました。全体計画の策定を完了した2006年度の第1フェーズに続き、2007年度では内部統制の文書化を行う第2フェーズ、業務プロセスなどの整備・運用状況の評価を行う第3フェーズ、その評価に基づき不備の洗い出しと改善を進める第4フェーズを順次完了しました。現在は実施体制の整備を終え、内部統制の評価を進めています。今後は、報告の作成プロセスそのものに遡って誤りを起こさない仕組みを構築し、その適正性を公表していく取組みをグループ全体で進めます。

Staff's Voice

J-SOX法の本番を迎える 準備が整いました

より信頼性の高い財務諸表の作成、この基盤となる内部統制で業務処理統制、IT全般統制を中心にサポートさせていただいています。各社のご尽力により、実施体制の準備が整い無事本番年度を迎えます。



コニカミノルタ
情報システム株式会社
ビジネスシステム開発本部
チーフ

國友 健一
Kenichi Kunitomo

社会からの“信頼”という、企業価値をめざして。

さまざまなステークホルダーの皆様からのご要望に応え、企業としての社会的責任を果たすために、

コニカミノルタは広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を公正に公開します。

社会からの声を経営に取り入れることで、ステークホルダーの皆様からの“信頼”という企業価値の向上を目指します。

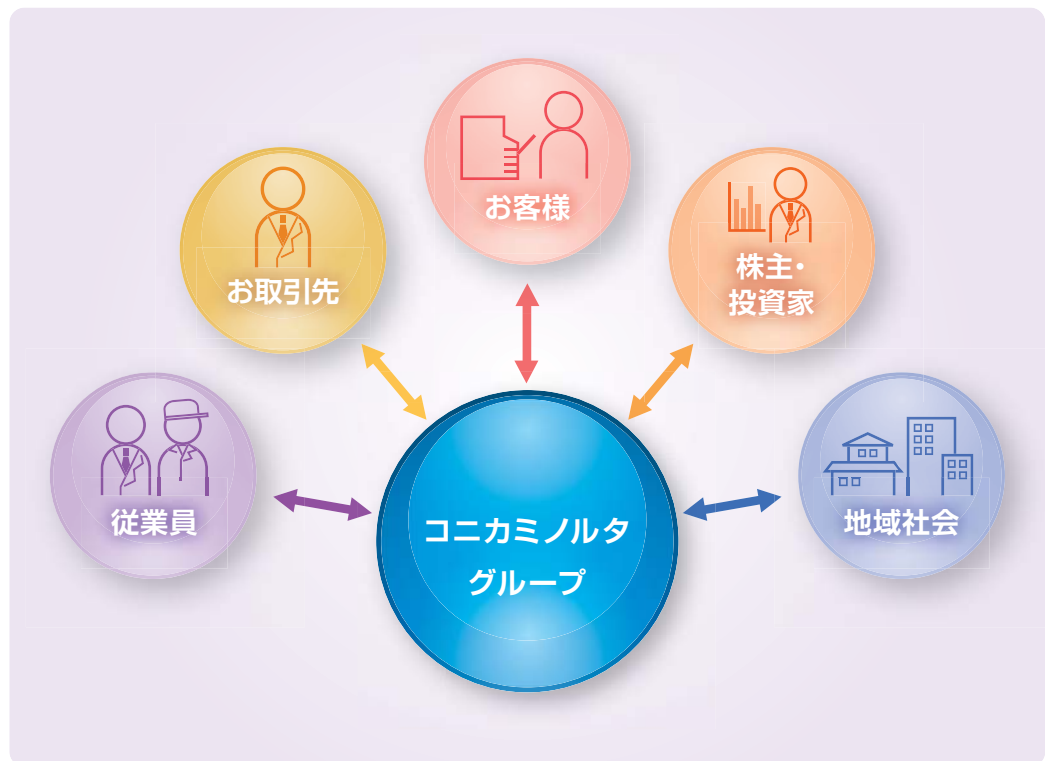
一人ひとりの「あなた」と対話します

●ステークホルダーの皆様とのかかわり

ステークホルダーの皆様の声を経営に活かすために、コニカミノルタは、お客様、お取引先、株主・投資家、従業員、地域社会の皆様と、多様な手段を使った双方向のコミュニケーションを行っています。

また、私たちの事業活動や社会とのかかわりについて多くの方々から正しく理解され、信頼を得るために、財務情報だけでなく、社会活動や環境活動などの非財務情報も含めて、適時に公開しています。

■ ステークホルダーの皆様との対話



CSRレポートを5カ国語で作成

コニカミノルタのCSR活動を、海外の幅広いステークホルダーの皆様へ理解していただくために、2005年以降、日本語・英語・中国語・ドイツ語・フランス語でレポートを作成しています。できる限り多くの国の活動を紹介すると同時に、活動を支える各国の従業員も紹介しています。



株主・投資家の皆様へ積極的に情報を開示します

●IR活動

株主・投資家の皆様へコニカミノルタの企業活動をよりご理解いただくために、多くの情報を積極的に開示するIR(インベスター・リレーションズ=投資家向け広報)活動を行っています。2007年度も、四半期ごとに投資家向け大規模決算説明会を開催しました。また、決算説明会の同日中の国際電話会議の実施や、投資家コンファレンスへの参加、主要各国の投資家訪問など、グローバルなIR活動を推進しています。

トップ自らによるコミュニケーションが大切との考えから、投資家の皆様とのミーティングでは、必要に応じて経営トップ層が対応しています。2007年度には大手機関投資家400社以上とミーティングを行い、このうち約120社には代表執行役社長や役員が対応しました。また、機関投資家への訪問を積極的に行い、株主・投資家の皆様のご意見を経営計画に反映させるよう努めています。

さらに、一般投資家の皆様へのタイムリーな情報発信のため、決算説明会の資料および音声をホームページで公開しています。

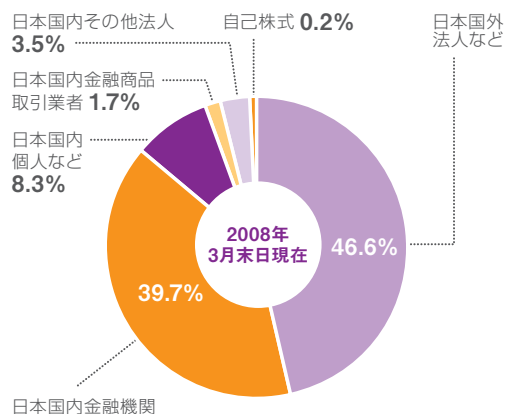
決算説明会	4回(中間決算、期末決算、第1・第3四半期)
事業・技術説明会	2回
投資家コンファレンス参加	7回(東京3回、米国3回、欧州1回)
機関投資家訪問	5回(東京2回、欧州1回、北米2回)
個別ミーティング	400社以上

皆様の声を経営に活かします

●インターネットによる議決権行使

2007年6月の株主総会より、インターネットによる議決権行使を可能にしました。これにより、日本国内の株主様および全世界(米国を中心に英国など)で約2,400の機関投資家の皆様に参加されている電子投票システムを通じた行使が可能になりました。これまでは、日本で開催される株主総会の議案は、日本国外の機関投資家の皆様には多くの関係機関を介して通知されるため、内容の検討期間が短い状況にありました。電子投票システムの導入により日本国内のみならず海外でも、議案についての情報を株主総会招集通知発送日の当日に閲覧できるようになり、日本国外の機関投資家の議決権行使比率が前年より向上しました。

■株主構成比



社会からの“信頼”という、企業価値をめざして。

Staff's Voice

新しいソリューションは、
お客様への
雰囲気づくりから

新しい印刷ソリューションを実現するためには、お客様が小さなことでも気軽に相談できる雰囲気づくりも重要だと考えています。品川デジタルイメージングスクエアを最大限に活用し「一緒にやってみましょう!」と言えるよう心がけています。



コニカミノルタ
ビジネスソリューションズ株式会社
プロダクションプリント事業部
営業推進部

坂入 陽子
Yoko Sakairi

私たちのCSR活動の 最新ニュースをお知らせします

●CSR通信

コニカミノルタのホームページでは、私たちのさまざまなCSR活動を広く社会の皆様にお知らせする「CSR通信」のコーナーを設け、随時最新の取組みを掲載しています。「CSR通信」は、2007年9月にスタートし、CSR活動をご紹介します。

お客様から信頼される商品やサービスの提供、公正で透明な企業活動、環境の保全など、コニカミノルタの活動を「CSR通信」を通じてお伝えしていきます。



CSR通信

プロダクションプリントの進化を 提案する体験空間

●デジタルイメージングスクエア

2007年10月、東京・品川に、コニカミノルタの新しいショールーム「デジタルイメージングスクエア (DIS)」がオープンしました。

プロダクションプリントの最新情報を発信し、コニカミノルタの印刷ソリューションをお客様に体験していただく空間です。DISは、製品という“モノ”を売るだけでなく、お客様の問題解決を図る“コト”を提供する発想で、プロダクションプリントにかかわるあらゆる問題解決や、新しいビジネスモデルをご提案します。

DISはお客様の仕事に直結するソリューション拠点として、高い評価をいただいています。コニカミノルタは、今後も印刷業界や企業内印刷のお客様に向けた最新情報の提供に力を入れていきます。



デジタルイメージングスクエア

お客様とふれあう ミニ・クルーズを開催

●ディスカバリー・クルーズ

ベルギーの情報機器販売会社であるコニカミノルタビジネスソリューションズベルギー社では、2007年10月、「コニカミノルタ・ディスカバリー・クルーズ」と題するイベントを開催しました。リエージュ、アントワープ、ヘントの3都市それぞれで、クルーザー「Seastar」号での展示会にお客様を招待しました。

船内6カ所に設けられたビジネスコーナーでは、新しいbizhub(ビズハブ)ラインナップやコニカミノルタの最新ソリューションが紹介されました。3日間で250名が参加したこのイベントは、お客様とコニカミノルタがふれあうすばらしい機会となりました。



船上展示会

全世界の従業員が コミュニケーションの主役

●グローバルグループ報

2008年春、全世界のグループ従業員を対象にした「グローバルグループ報」を創刊しました。今後年4回、定期的に発行していく予定です。

グローバルグループ報の発行を契機に、情報の共有だけではなく、イントラネットやアンケートなどを利用し従業員の声聞こえる双方向のコミュニケーションを強化していきます。

日本版のグループ報とあわせて、全世界の従業員がコニカミノルタへの理解を深め親しみを感じることを、そして社会やお客様に対しては、コニカミノルタの顔として対話を深めることを目指していきます。



グローバルグループ報創刊号

Staff's Voice

継続的なイノベーションの 実現のために

お客様との確固とした情報交流の場を作ることによって、私たちの知識と技術に真の付加価値がもたらされます。コニカミノルタが継続してイノベーションを進めるには、このようなコミュニケーションが重要です。



コニカミノルタ
ビジネスソリューションズベルギー社
セールス&マーケティング部
戦略・開発マネジャー

Kim Limbourg

社会からの“信頼”という、企業価値をめざして。

Staff's Voice

お取引先様とともに 築きあげるCSR調達を

部材調達環境が激動しているアジアにおいて、お取引先様とのパートナーシップは最重要テーマであります。私たちは、お取引先様と相互に企業価値や顧客満足度を向上させる施策としてCSR調達活動(調達コラボレーション)を展開し、信頼され安心感あふれる会社を全員で目指しています。



コニカミノルタ
コンサルティング(深圳)社
管理部
副高級経理

Joe Ho

※1…カーボンオフセット
経済活動などによって排出されるCO₂などの温室効果ガスを、植林や、風力・太陽光のクリーンエネルギー事業投資などのCO₂削減活動によって相殺すること。

お取引先の ビジネス改善をご提案

●調達コラボレーションシステム

コニカミノルタでは、購入・調達を行うお取引先とのコミュニケーションも活発に行っています。コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)では、お取引先に対する説明会を毎年開催し、調達方針・実績、次年度の調達計画をお知らせしています。また、お取引先の品質、コスト、納期、環境、経営管理にわたって支援と協力をを行う「調達コラボレーションシステム」を運用し、お取引先の現場の状況を確認した上で、改善をご提案しています。

さらに、コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)では、部品・資材などの供給トラブルを防ぐため、経営評価システムを運用してお取引先のリスクを未然に防止しています。

2008年3月に開催したお取引先説明会では、調達コラボレーション活動を前面に押し出し、参加社数は華南地区で240社、華東地区で170社にのびりました。大規模な開催となり、2008年度へ向けたお取引先との新しいスタートができました。



お取引先説明会

全従業員がCSRの主役

●CSR研修

従業員とのコミュニケーションの一環として、マネジメント層や、一般従業員のCSRの理解と実践につなげるために、新入社員、新任役員および新任管理職のCSR研修を行いました(参加者総計約270名)。

新任管理職の研修後のアンケートでは、「CSR教育の感想は?」「コニカミノルタらしいCSR活動とは?」「所属部門の機能に即してどのようなCSR活動が考えられるか?」などの問いかけに、多くの回答が寄せられました。

従業員一人ひとりの声を、今後の活動の参考にしていきたいと考えています。

■ 新任管理職研修後のアンケート結果(抜粋)

【コニカミノルタらしいCSR活動とは?】 という質問に対する意見

- 100%再生紙完全対応のMFP開発、各サイトの電源の太陽電池/風力発電などと非常時の地域住民へ給電ができないか。
- 紙やトナーの使用量の少ないMFP、非常に高いリサイクル率の製品などの開発をめざすべき。
- 長期的にイメージング企業としてペーパーレス化の推進が必要。
- 事務機が、今後使用することで発生するCO₂のカーボンオフセット^{*1}を取り入れ(植林などの費用の負担)、医療機器の場合は、医薬品の途上国への寄付も考えられる。

従業員とその家族が、 清掃活動で地域社会と対話しました

●中国大連地域クリーンアップ運動

中国の光学レンズなどの生産会社であるコニカミノルタオプト(大連)社の従業員約200人とその家族が、2007年11月に大連開発区砲台山公園で清掃活動を行いました。中国ではビニール買物袋などの散乱が社会問題となっている中、「地域の環境保護は自分たちの行動から」を合言葉に公園内のゴミを拾い集め、90リットル入りゴミ袋30袋分を回収しました。多くの従業員が、単なる清掃活動ではなく環境保護という意識を持って参加した今回の活動は、当日の様子がテレビ放映されたほか新聞にも大きく掲載されました。

また、今回の活動には従業員の子もたちも自主的に参加しました。従業員とその家族の行動を通して地域社会と対話する、私たちのコミュニケーション活動の一環です。



大連地域のクリーンアップ活動

次代を担う人たちに、 ものづくりのおもしろさを伝えます

●インターンシップ

将来エンジニアを目指す学生を対象とした、公募によるインターンシップ「製品からみるコア技術と先端技術体感コース」を、2007年9月にコニカミノルタの東京サイトで実施し、21名の学生の方々が参加しました。コニカミノルタのインターンシップは、「夢を形にしていける、ものづくりのおもしろさ」を体験していただくことを重視しています。たとえば、機械・電気情報系のコースでは、デジタル複合機を分解し組み立てるという作業を通し、製品に集積された先端技術を実感していただく実習を行いました。

今後も、学生の皆様に企業で働くということを知っていただく機会を提供することで、自らの関心や適性にあった就職活動を支援していきます。



「デジタル複合機の分解と技術解析」の実習風景

Staff's Voice

従業員からの提案で、
地域クリーンアップ運動が
スムーズに

大連の地域クリーンアップ運動は初めての試みでしたが、具体的な実施案について従業員から積極的な提案があり、活動がとてもスムーズに推進できました。200人余りの従業員が約2時間かけて清掃した砲台山公園を見た瞬間、言葉にできない感動を覚えました。



コニカミノルタ
オプト(大連)社
総務部
主任

金哲久
Jin Zhe Jiu

より良い社会をつくることも、私たちの仕事。

グループの本業の中で、より良い社会づくりに貢献したい。

こうした考えからコニカミノルタは、グローバルな視野で「企業市民」として

社会と価値観を共有し、社会との共生を目指す活動を続けています。

地域の文化・歴史・慣習を尊重し、地域社会の抱える課題を自らの問題として考え、解決に挑みます。

企業活動を通して 社会に貢献します

●社会貢献の考え方

コニカミノルタグループは、さまざまな活動を通じて、社会との良好な関係を作り、維持向上させることが重要と考えています。社会貢献活動を「ステークホルダーの皆様からの信頼・共感」「計画的な実行」「社員の感動・喜び・達成感」の3つの視点からとらえながら、関係する方々や団体、参加した従業員だけでなく、広く社会からも共感、満足いただける活動を目指しています。

【コニカミノルタ社会貢献活動方針】

私たちコニカミノルタグループは、イメージングの領域でグローバルに事業を展開する企業として、広く社会から歓迎され、地域社会から共感を与える社会貢献を継続的にを行います。

目の不自由な方に 触ってわかる立体コピーを

●視覚障がい者支援の立体コピーシステムを提供

2007年6月、点字原稿などを立体形状にコピーするなど、視覚障がい者の方への情報伝達を支援する立体コピーシステム「Partner Vision bizhub 360」を発売しました。このシステムは専用複合機と現像機から構成され、複合機で複写したカプセルペーパー（専用紙）を現像機に挿入するだけで、簡単に立体コピーを作成するシステムです。文字（点字）はもちろん、これまで難しかったグラフ、地図などの情報の伝達がしやすくなります。2007年度には、現代日本画の展覧会「遠き道展—はて無き精進の道程—」で視覚障がい者の方に美術鑑賞を楽しんでいただく工夫として、この立体コピーを使用した、触ってわかる展示会ポスターや鑑賞用資料の作成を支援しました。この展覧会は、2010年初めにかけて、日本各地を巡回して開催される予定です。



立体コピーシステム「Partner Vision bizhub 360」

各地でランニング教室を開催

2006年から「コニカミノルタ ランニングプロジェクト」を発足させ、各地で“走ることの感動”を支援しています。2007年10月に東京・日野市で開催された「たのしいジョギング教室 in HINO」では、コニカミノルタ陸上競技部の監督や選手が、参加した約80名の皆様に技術指導を行いました。



乳がんの啓発運動を積極的に支援

●乳がん撲滅に向けた取り組み

技術を通して一人でも多くの方を乳がんから救うために、コニカミノルタでは、乳がんの早期発見に役立つ乳房X線撮影装置「PCMシステム」(デジタルマンモグラフィ)を開発し、提供しています。これに呼応し、グループ全体で乳がんへの意識を高める「ピンクリボン運動」を支援しています。

2007年は、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の啓発イベント「ピンクリボンフェスティバル」への特別協賛をはじめ、コニカミノルタプラザ(東京都新宿区)での特別企画展「ピンクリボンTシャツデザイン展」の開催、コニカミノルタ東京サイト(日野・八王子)でのピンクリボン運動を支援する横断幕の設置など、乳がんの撲滅を目指す多彩な活動を行いました。



コニカミノルタの
ピンクリボン運動マーク

ピンクリボンの願いを中国にも

●中国におけるピンクリボン運動

中国では年間約4万人の女性が乳がんで亡くなっています。コニカミノルタは、中国にもピンクリボン運動の輪を広げています。2006年末には、復旦大学医学院附属上海がんセンターと北京第一病院に乳房X線撮影装置「PCMシステム」(デジタルマンモグラフィ)を寄贈しています。

2007年10月には、上海市の女性健康講座「女性健康講堂」の支援を開始し、定期的な検査による乳がんの早期発見、早期治療の重要性を中国の女性にご理解いただくお手伝いをしました。本講座では科学的な乳がんの予防方法と病気に対する知識をお伝えし、参加された方々から多くの質問が出されるなど、大きな関心を持っていただくことができました。

ピンクリボン運動は世界的に年々活発化しており、コニカミノルタは積極的な支援活動を続けていきます。



女性健康講座(上海市)の看板

Staff's Voice

中国の乳がんの撲滅を目指します

乳がんの問題はここ中国においても非常に注目されており、私のまわりでも身近になってきています。北京/上海でのPCM寄贈による社会貢献とあわせ、PCMを販売していくことで一人でも多くの乳がん患者救済に貢献できればと思います。



コニカミノルタ
メディカル&グラフィック(上海)社
総経理

山田 幸司
Koji Yamada

より良い社会をつくることも、私たちの仕事。

野生動物保護のために

●マクジャク保護への支援(中国)

中国の情報機器販売会社であるコニカミノルタビジネスイノベーションズ(中国)社では、第一級保護動物であるマクジャクの保護を支援するため、中国野生動物保護協会(CWCA)の委員会と地域オフィスにレーザプリンタを寄贈しました。

コニカミノルタビジネスイノベーションズ(中国)社ではほかにも、知的障がい者のための上海スペシャルオリンピック大会へのデジタル複合機/プリンタの貸し出し、およびプリンタの寄贈や、農民工子弟学校に対する支援など、積極的で多様な社会貢献活動を行っています。



中国野生動物保護協会からの
寄贈証明書



国家第一級保護動物のマクジャク

画像科学の発展に

寄与します

●コニカミノルタ画像科学振興財団

1966年に設立されたコニカミノルタ画像科学振興財団は、画像科学の研究などを助成することで、学術を振興することを主な目的に活動を続けています。毎年「新しい画像技術の探求」をテーマに画像科学に関する斬新な発想による研究計画を一般公募しており、優れた研究には「コニカミノルタ画像科学奨励賞」を授与しています。2007年度は、「画像に関する材料およびデバイスの研究」など3つの重点研究課題を設けて一般公募を行い、以下の5名が受賞しました。

【2007年度の受賞者(五十音順)】

竹岡 敬和 氏

(名古屋大学大学院 工学研究科 准教授)

「全反射型ディスプレイ開発を目指した角度依存性のないアクティブフォトニック結晶の創製」

長尾 大輔 氏

(東北大学大学院 工学研究科 助教)

「レーザー誘起熱分解法を利用した発光性誘電パターン薄膜の開発」

西村 智 氏

(東京大学 循環器内科 研究員)

「生体内分子イメージング手法を用いたメタボリックシンドロームにおける細胞ネットワーク・機能異常の解明」

宮丸 文章 氏

(信州大学 理学部物理科学科 助教)

「テラヘルツ光による癌診断イメージングシステムの開発」

柳田 健之 氏

(東北大学 多元物質科学研究所 助教)

「無機ファイバーシンチレータを用いた高解像度ガンカメラの開発」

コニカミノルタ発の 宇宙旅行体験

●まなびピア岡山2007

2007年11月に開催された第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」に参加し、子どもたちを中心に広範な世代の方々に対して宇宙や天文への関心を持っていただく機会を提供しました。

コニカミノルタでは、2001年の山形大会以来、「まなびピア」へ毎年、小型で持ち運びができるデジタルプラネタリウム「MEDIAGLOBE(メディアグローブ)」を出展しています。これは、マルチメディア投影機能を備えた全天周デジタルプラネタリウムで、銀河や天体を3次元モデルで映し出すことで、太陽系を飛び出して星間飛行まで体験することができます。コニカミノルタではまた、多種多様なCG番組を提供することで、天文知識の普及を支援しています。



「メディアグローブII」投影イメージ

「動くこども110番」 運動に参加

●子どもの安全を守る地域運動に参加

コニカミノルタの関西の事業所では、地域の子どもの安全を守るために大阪府が推進する「こども110番」運動に賛同し、2008年2月からグループ従業員が一丸となって協力を開始しています。

地域で使用している営業車合計約210台を協力車両として届け出ており、これらの車両には「こども110番」のステッカーが貼られています。ドライバーは、助けを求める子どもがいた場合には、保護をした上で状況に応じて110番や119番に通報し、警察や消防の到着まで安全を守ります。コニカミノルタは今後も、地域と協力して、次世代を担う大切な子どもたちを育むための活動に力を注いでいきます。



こども110番のステッカー



ステッカーが貼られた車両

Staff's Voice

社会の宝物を、犯罪や危険から守りたい

今CSR活動に求められるのは、社会の要請に広く応えていくこと。私たちは社会の宝物である子どもを犯罪や危険から守るため、「動くこども110番」などの活動を通じて、これからも地域社会への貢献を継続します。



コニカミノルタ
総合サービス株式会社
サイトサービス部
関西サービスセンター
西本町事業所長

銅田 佳代子

Kayoko Akada

より良い社会をつくることも、私たちの仕事。

Staff's Voice

障がいを持つ方々と
社会の一体化を
支援しています

視覚障がい者支援団体 ONCEなどの団体に対する我々の支援は、ユニバーサルデザインの思想を反映しているだけでなく、各団体の取組みに対する我々の参加と貢献の意志の表れでもあります。こうした活動を通じて我々は障がい者の方々と社会の一体化を支援します。



コニカミノルタ
ビジネスソリューションズスペイン社
マーケティング部

Ignacio J. Cumbreño

社会貢献の思いを地域へ、 全米へ

●カラフルトゥモロー基金を設立(米国)

米国の情報機器販売会社であるコニカミノルタビジネスソリューションズU.S.A.社は、2007年2月、米国での社会貢献活動をいっそう活発に展開することを目指し、非営利団体「コニカミノルタカラフルトゥモロー基金」を設立しました。

同基金には、コニカミノルタホールディングス(株)はもちろん、コニカミノルタビジネスソリューションズU.S.A.社のビジネスパートナーKIP America社や、販売ディーラーの皆様、同社の従業員からも積極的な協力をいただいています。

この基金は、ニューオーリンズ州で、低収入家庭の子どもたちに進学機会を開くことを目指す「マクダナ15スクール」の支援に力を注いでいます。2007年度には、卒業生への「コニカミノルタ奨学金」を開始するとともに、校舎の補修工事の支援や、カラープリンタ、スキャナなどの寄付を行いました。

このほかの2007年度の支援先には、成人識字率向上を目指すニュージャージー州のNPO「Project Literacy U.S.」、マサチューセッツ州でスミス大学をはじめとする5つの大学が共同運営する「東アジア研究センター」、難病の子どもたちのために活動する「国際レット症候群財団」などがあります。

今後は、全米に活動範囲を拡大し、さらに活発な活動を行っていく予定です。

コニカミノルタ
カラフルトゥモロー基金



世界各地の 障がいのある人々のために

●NGOへの寄付活動(スペイン)

スペインの情報機器販売会社であるコニカミノルタビジネスソリューションズスペイン社は、NGOなどへの支援を通じて、グローバルな社会貢献を続けています。たとえば、スペインと南米で最大の視覚障がい者支援団体ONCEに、寄付をはじめとする協力活動を行っています。ONCEは視覚障がい者67,000人にケアを提供する団体であり、コニカミノルタビジネスソリューションズスペイン社の協力は多くの方への貢献につながっています。さらに、学習障がいを持つ子どもたちの教育団体(Colegio La Encina)、骨形成不全症の子どもたちの支援団体(Valtay)、第三世界の子どもたちのためのプロジェクト(Infancia con Futuro)など、世界各地で活動するNGOに資金や機器を寄付するほか、慈善事業を目的とした富くじなどの活動にも参加しています。

ハンディキャップに 負けない心を応援します

●障がい者世界ボウリング選手権への

出場を支援(イギリス)

イギリスの情報機器販売会社であるコニカミノルタビジネスソリューションズ(UK)社の従業員たちがつくる社会貢献活動グループ「ビズクラブ(Bizclub)」は、2007年、障がい者世界ボウリング選手権大会(Multi Disabled World Bowls Championship)に出場するデイビスさんのために、開催地となるオーストラリアのシドニーまでの旅費を集めました。「ビズクラブ」がチャリティイベントによって集めた募金に加え、コニカミノルタビジネスソリューションズ(UK)社も資金を提供しました。「ビズクラブ」では、この他、宝くじ、ダンス大会、クイズ大会、ゴルフデーなどのイベントを通じて、地域のさまざまな慈善活動や福祉活動に寄付を行っています。



デイビスさんと支援者たち

美をつくる技術で、 美術館をサポート

●ポスター美術館を支援(ポーランド)

ポーランドの情報機器販売会社であるコニカミノルタビジネスソリューションズポーランド社は、ポーランドのヴィラヌフ・ポスター美術館に対し、アートイベントのサポートおよび開催を目的とした支援を開始しました。同美術館は世界初のポスター美術館であり、現在55,000点におよぶアートポスターコレクションを所蔵し、世界でも重要な位置づけを持っています。

同美術館への支援は、2007年10月、「現代日本ポスター展」のオープニングセレモニーに、宣伝用資料の印刷を担当していたコニカミノルタビジネスソリューションズポーランド社が招かれたことから始まりました。同美術館への支援は、コニカミノルタの製品・技術を使った印刷物の準備を通じて行います。次の段階として、同美術館の40周年記念行事と第21回国際ポスター・ビエンナーレの開催を支援する予定です。



ヴィラヌフ・ポスター美術館

Staff's Voice

ポスター芸術の振興は、
私たちにふさわしい
テーマです

ポスター芸術の振興は、イメージングの世界をリードするコニカミノルタにふさわしいテーマと言えるでしょう。こうした考えから私たちはヴィラヌフ・ポスター美術館への支援を開始しました。展覧会に関連した制作物の作成を行っています。



コニカミノルタ
ビジネスソリューションズポーランド社
マーケティング部
PRマネージャー

Magdalena Rudecka

かけがえのない財産は、「人」です。

企業の最大の財産であり、企業価値を大きく育てる主役は、全世界で活動する一人ひとりの従業員です。

その力を最大限にひきだすために、コニカミノルタでは、

従業員のゆとりと豊かさを実現し、安全で働きやすい環境をつくるとともに、

その人格、個性を尊重していきます。

創造するのは 「人材」という価値

●コニカミノルタの人事理念

コニカミノルタは、経営理念「新しい価値の創造」に基づく人事理念により、全世界で人材の育成と活用を進めています。世界の各地域の文化や慣習を尊重しながら、グループで働く一人ひとりが働きやすい職場づくりに努め、すべての従業員が、変革を求めてはつらつと能力を発揮できるよう環境を整えています。

■ 経営理念に基づくコニカミノルタの人事理念

【 経営理念 】

新しい価値の創造

【 企業メッセージ 】

The essentials of imaging

【 人事理念 】

イメージングの領域において市場をリードするグローバル企業を目指し、過去の成功体験や慣習にとらわれずに、お客様の視点に立ち、常に変革し続ける人を尊重します。

「能力」と「成果」が モノサシです

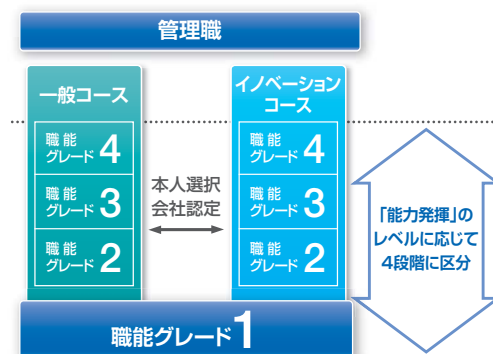
●人事制度

コニカミノルタの人事制度は、「従業員の能力と仕事へのやりがいを大きくし、常に成長し続ける人材を尊重し、育成する」ことを目指して構築されています。昇格・昇給についても、能力・成果を公平に評価し反映させる仕組みです。

また、イノベーションコースという「業務遂行における裁量度が高く、成果反映度が高い働き方ができる」コースを設定し、より高い目標にチャレンジしていく人が大きなやりがいをもって仕事に取り組める環境を提供しています。

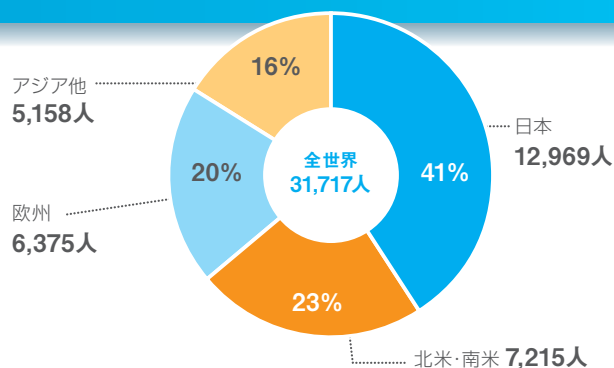
コニカミノルタは、自らを「チャレンジャブルな人材集団」とする仕組みと方策づくりに、世界規模で継続して取り組んでいきます。

■ 職能グレード制度（日本）



グローバルな人材

全世界で働くコニカミノルタグループの正従業員数は、2008年3月現在で25カ国85社にわたり、あわせて31,717人にのぼります。その60%近くが欧米や南米、アジア諸国の人材です。コニカミノルタは、グローバルな人材集団といえます。



多彩なプログラムで “多才”を育成

●人材育成制度

人材の育成・能力開発はOJD^{*1}を基本に、役職の変化にあわせた「階層別研修」、各種の「知識・スキル向上研修」、次世代リーダー育成に向けた「戦略的育成プログラム」などさまざまな教育プログラムを整えています。特に2007年度は、全管理職を対象として、部下とのコミュニケーション力向上をテーマに研修を実施し、職場での人材育成機能の向上を図りました。

2007年度は研修費用としては271百万円、研修延べ時間としては6,691時間、延べ人数は5,231名が受講しました。さらに、スキルアッププログラム「コニカミノルタカレッジ」、「チャレンジ技術者フォーラム」、「ビジネスリーダープログラム」など、多彩な能力の育成を目指すプログラムを用意しています。



コニカミノルタカレッジ(日本)

従業員がいきいきと 働ける会社へ

●働きやすい職場環境づくり

従業員の仕事と生活の両立と調和を目指し、男女ともに利用できる各種の育児支援制度を、法定以上の支援も含めて充実させています。2006年7月に発足した「次世代育成推進委員会」が中心となって活動を進めており、積極的な取り組みの結果、コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株)とコニカミノルタテクノロジーセンター(株)は、2007年5月に日本の厚生労働省から子育てサポート企業の次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。さらに、セクシュアルハラスメント、パワーハラスメントなどの防止のために、2007年12月にはセクシュアルハラスメント相談窓口を日本の主要事業所に設置し、相談しやすい環境づくりを進めるとともに、日本のグループ会社の全管理職約1,600名に対して集合教育を行いました。

※1…OJD
On The Job Developmentの略。職場で上司の指導のもと、業務の遂行を通して能力開発をする。



次世代認定マーク
「くるみん」

■ 2007年度コニカミノルタ(日本)の出生・育児支援制度の利用状況

出産休暇取得者数 (女性従業員数: 1,270名)	53名
育児休職取得者数	女性113名 男性4名
育児短時間勤務利用者数	女性156名

かけがえのない財産は、「人」です。

Staff's Voice

すばらしい
「Road to Tier 1」

会社からの支援で、この夏、カナダの全国ミーティングのツアーに参加します。私が働く会社では、従業員の勤勉な仕事に報いるために、楽しく創意にあふれたプログラムが用意されています。このようなすばらしい企業で働けることを喜びに思います。



コニカミノルタ
ビジネスソリューションズU.S.A.社
SAPビジネス・ウェアハウス
アナリスト

Sajani Menon

一流の企業は、 一流の人材から

●Road to Tier 1

米国の情報機器販売会社であるコニカミノルタビジネスソリューションズU.S.A.社では、「Road to Tier 1（一流企業への道）」と名づけた、従業員のeラーニングとMVP表彰の2本柱のプログラムを実施しています。

イントラネットを利用したeラーニングは「パスポートプログラム」といい、必修科目を終了した従業員はパスポートクラブのメンバーとなり、社長とランチなどでコミュニケーションを図るイベントに参加できます。また、従業員の投票と各部門の委員から構成される選考委員会で月間MVPを選び、表彰します。月間MVPの受賞者はeメールとイントラネットで発表され、従業員のやる気をさらに高めていきます。人を育てることで、企業を育てる。「Road to Tier 1」は、まさに一流企業への近道です。



MVP授賞者

中国従業員の レクリエーション

●第一回従業員運動会開催

中国の情報機器販売会社であるコニカミノルタビジネステクノロジーズ(無錫)社では、会社をあげたCSR活動に力を入れています。その一環として、2007年6月、快晴のもとで中国各地出身の従業員約3,000名が江南大学のスタジアムに集まり、第一回運動会を開催しました。今回の運動会は、8つの個人競技と5つの団体競技を設け、男子・女子のランニング、走り幅跳び、縄跳び、サッカー、バスケットボールなど、多彩な競技で盛り上がりました。



運動会開会宣言



従業員の子育てに

バイリンガルの幼稚園

●幼稚園の助成

ドイツの情報機器販売会社であるコニカミノルタビジネスソリューションズヨーロッパ社とコニカミノルタビジネスソリューションズドイツ社では、本社の近くに会社が助成を行う幼稚園を設け、従業員の育児を支援しています。

この幼稚園はモンテッソーリ教育を導入し、ドイツ語・英語ネイティブのスタッフによるバイリンガル教育を行います。英語や音楽の早期教育、読み・書き・計算の指導、遊びやスポーツ、近隣への遠足など、子ども一人ひとりの年齢に応じた系統的な教育を進めています。

幼稚園は年中無休で、緊急時には1時間単位で子どもを預けられるなど、育児中の従業員には頼れる存在です。また、会社にとっても、従業員が速やかに職場復帰できるというメリットがあります。

会社の中で学べます

●スキルアップ支援プログラム

ノルウェーの情報機器販売会社であるコニカミノルタビジネスソリューションズノルウェー社では、従業員が社内で新しい職種につく資格を得るため、そして技術の変化にあわせたスキルや知識を身につけるために、金銭的支援を含む研修プログラムを設けています。このプログラムは2004年4月より継続して実施されており、すべての従業員が利用できます。

研修の内容は「技術的・商業的テーマ」「大学・高等学校レベル」「IT技術」に分かれ、研修は勤務時間外に行われます。試験も実施され、勤務中の受験も認められます。研修費用は従業員が一定の割合で負担し、残りは会社が支援します。本格的な教育で従業員のスキルアップを支援するこの制度は、奨学金まで備えた、企業の中の“学校”といえます。

Staff's Voice



コニカミノルタ
ビジネスソリューションズ
ヨーロッパ社
国際SCM部

Simone Nolte

安心して 仕事に復帰できます

私は現在妊娠中ですが、出産したら1年後には仕事に復帰したいと考えています。幼稚園では午前6時半から午後9時までサービスを提供してくれるので、安心してフルタイムで働くことができます。これはドイツ国内でも先駆的な例と言えるでしょう。

Staff's Voice



コニカミノルタ
ビジネスソリューションズ
ノルウェー社
ローカルマーケティング部
プロダクトマネジャー

Thomas Gronli

キャリアの発展を目指して 学んでいます

長年技術系の職を務めてきましたが、よりマーケティング志向の強いキャリアへの転向を目指して、目下ビジネススクールの定時制課程で学んでいます。マーケティング管理プログラムを履修し、学位取得を目指しています。



コニカミノルタへの声

国際NGOナチュラル・ステップ・ジャパンの高見幸子氏に、
コニカミノルタのCSR活動に対するご意見、ご要望をお寄せいただきました。



国際NGO ナチュラル・ステップ・ジャパン

代表 高見 幸子 氏

<http://www.tnsj.org/>

※1…SRI格付

SRIとはSocially Responsible Investmentの略。企業の環境、社会、経済面のCSR活動を考慮した格付のこと。

※2…バックキャスティング

将来のあるべき姿・ゴールを描いて、そのゴールから現在までを振り返って、今後取るべき行動を明らかにする考え方。

※3…カーボンニュートラル

経済活動などによって排出されるCO₂などの温室効果ガスを、植林や、風力・太陽光のクリーンエネルギー事業投資などのCO₂削減活動によって相殺し、ゼロに近づける取組み。

※4…再生可能エネルギー

太陽光、風力など、自然界で繰り返し起こる現象から取り出すエネルギーのこと。石炭、石油などの化石燃料と違い、どれだけ使用しても減少することがなく、半永久的に利用可能。

CO₂排出量削減の総量目標が素晴らしい

私とコニカミノルタとのかかわりは、2つあります。まず、私自身がコニカミノルタ製品のユーザーであること。1970年代、初めて使ったカメラはミノルタ製品で、現在もコニカミノルタのデジタルカメラを愛用しています。個人的には品質が高いと感じています。もうひとつのかかわりは、2005年、私が代表を務めるナチュラル・ステップ・ジャパンが、ある金融機関から依頼を受けて日本企業のSRI格付^{※1}を行ったことです。ナチュラル・ステップは、1989年にスウェーデンで発足した環境団体で、社会の持続可能性について科学的に定義づけて企業の取組みを評価しています。2005年の時点では、コニカミノルタのSRI格付は日経225化学企業の中で4位でした。自社の課題や進むべき方向がはっきりしている、目標達成度も良いなど、高く評価されています。

今回、3年ぶりにコニカミノルタの活動を見渡してみても、驚いたのは非常にグローバルな事業を展開していることです。また、ヘルスケアや印刷などの分野で新たな価値の提供を行っていることも印象的でした。2007年度までのCSR活動を見ると、製品ライフサイクルをととしたCO₂排出量を、2010年度に“総量”で20%削減するという目標は素晴らしいと思います。また、デジタルカラー複合機の「bizhub（ビズハブ）シリーズ」や有機EL製品の開発など、持続可能性に貢献度の高い製品やイノベーションも評価できます。グローバル社会への貢献では、中国の病院への乳がん検診用のデジタルマンモグラフィの寄付などは、世界的に見ても優れたCSR活動だと思います。

コアビジネスと密着した長期ビジョンを

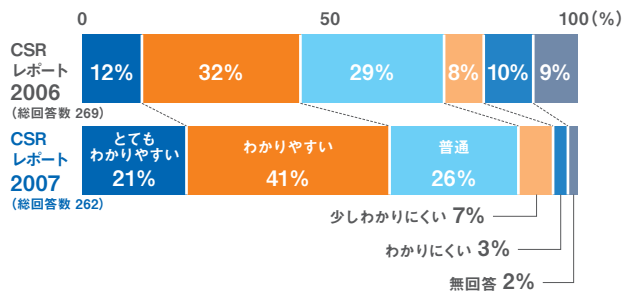
これからのコニカミノルタに望みたいことは、CSRの長期ビジョンに基づく戦略を持ってほしい、ということですね。たとえばEUでは、2050年にCO₂排出量を75～90%削減するという目標をたて、そこからフィードバックして現在の対策を考えるバックキャスティング^{※2}の手法をとっています。短期の目標にとどまらず、一世代先をみつめることで、たとえば再生可能なエネルギーの開発といった新しい発想や戦略が生まれてくるのです。また、持続可能な社会への貢献は、企業にとってコアビジネスそのものであり、イノベーションの原動力となります。コニカミノルタはまず、コアビジネスと密着した長期ビジョンと、アクションプランをつくるべきではないでしょうか。

長期ビジョンの大きなテーマとなるのは、環境面ではCO₂排出量削減によるカーボンニュートラル^{※3}の実現です。特に欧米のステークホルダーは、環境汚染が問題となっている中国での活動に注目しています。コニカミノルタでは日本国内のギャラリーで風力などによるグリーン電力を購入していますが、この動きをさらにオフィスや工場にひろげ、中国の工場でも太陽光発電などの再生可能エネルギー^{※4}を導入したらどうでしょうか？また、中国では、労働環境の充実をはじめ、社会面でも多くの課題があります。世界がみつめるこうしたテーマに率先して取り組んでいくことで、CSRのリーダーシップをとる企業のひとつとして、コニカミノルタはグローバルな信頼を得ることができると 생각합니다。

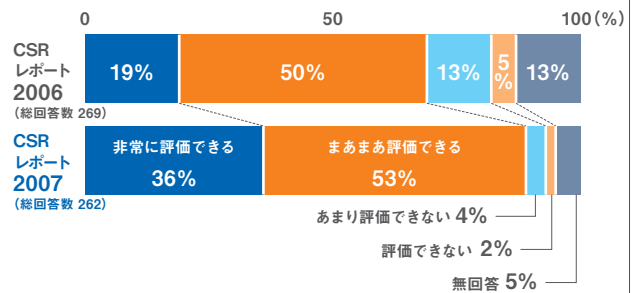
「コニカミノルタCSRレポート2007」へのご意見、ご感想に対して

CSRレポートは、ステークホルダーの皆様との双方向の重要なコミュニケーションツールと考えています。「CSRレポート2007」に、お寄せいただきました日本の個人株主の皆様からのご意見、ご感想と、「CSRレポート2008」に反映させていただいた取組みを、ご紹介させていただきます。

CSRレポート全体についてのご感想



コニカミノルタのCSR活動に対して



特に関心をお持ちいただいたコニカミノルタのCSR活動は?

- 商品の有用性・安全性
- 環境の保全
- 社会への貢献

もっと力を入れて欲しいコニカミノルタのCSR活動は?

- 環境の保全
- 商品の有用性・安全性
- 社会への貢献

皆様からのご意見、ご感想は、今回の「コニカミノルタCSRレポート2008」に、次のように反映させていただきました

CSRレポートとしては充分と思うが、あわせて経営概要を詳しく示して欲しい。

「コニカミノルタグループについて」、「コア技術と事業分野」、「コニカミノルタのCSRの考え方」の章を設けました。

最近問題になっている環境対策について、今後一層の努力を。

昨年度のCSRレポートより、環境関連のページ数を増やし内容の充実を図りました。現在、次期環境ビジョンの策定を進めています。

カタカナが多くて難解です。

カタカナ、外国語は必要最低限にとどめ、できる限りの注釈をつけました。

文章は簡潔に、文字は大きく、を希望する。

わかりやすい簡潔な文章を目指すとともに文字サイズにも配慮しました。

「コニカミノルタへの声」としていただいたご意見、ご感想に対して

「CSRレポート2007」では、「コニカミノルタへの声」として、コニカミノルタとかわりのある方々に、コニカミノルタに対するご意見、ご感想をお寄せいただき、次のように活かさせていただきました。

●東洋経済新報社 記者 吉川 明日香氏

社内の変化をもっとアピールして欲しい。

ご指摘いただきました有機EL(エレクトロルミネッセンス)などの新しい取組みについて、ホームページなどさまざまなツールを使ってご紹介させていただくよう努めています。

●特定非営利活動法人 有害化学物質削減ネットワーク(Tウォッチ) 理事長 中地 重晴氏

CSRレポート(冊子)で、数値などのデータの記載が減っているのが残念。

今年度のCSRレポートでは、主に「環境の保全」の章で、グラフや数値データの記載を増やし、ホームページでは、データ類が誰にでも探せるような開示を目指しました。

編集後記

今年度のCSRレポート・ホームページの制作にあたっては、レポートは2007年度の主要なCSRの取組みの掲載、ホームページは詳細なCSR活動の掲載と位置づけて、制作しました。

今後とも、「わかりやすく、読みやすく、親しみやすい」CSRレポートを目指して制作してまいりたいと考えていますので、今年も多くのご意見、ご感想をお寄せいただきますようお願いいたします。

CSR推進部



KONICA MINOLTA

コニカミノルタ ホールディングス株式会社

コニカミノルタ ビジネステクノロジーズ株式会社

コニカミノルタ オプト株式会社

コニカミノルタ エムジー株式会社

コニカミノルタ センシング株式会社

コニカミノルタ テクノロジーセンター株式会社

コニカミノルタ ビジネスエキスパート株式会社

コニカミノルタ IJ株式会社

コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

コニカミノルタホールディングス株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-1

広報・ブランド推進部

TEL:03-6250-2100 FAX:03-3218-1368

お問い合わせ先

CSR推進部

TEL:03-6250-2120 FAX:03-3287-7701

E-mail:csr-support@konicaminolta.jp

<http://konicaminolta.jp>



©Bernhard Edmaier / Mega Press Japan



この報告書は、環境に配慮したFSC認証紙と「大豆油インキ」を使用して印刷されています。

Printed in Japan 0806DD